

武蔵野市第六期長期計画 地域ワークショップ 報告書

(令和元年6月23日開催)

武蔵野市

目 次

1.	実施概要	P. 1
2.	実施詳細	P. 2
3.	ワークショップを通じた意見のまとめ	P. 9
4.	参加者アンケート結果	P.27
5.	市民ファシリテーターについて	P.38
6.	参考資料	P.47

1. 実施概要

目的

武蔵野市では、昭和 46 年（1971）年の最初の「基本構想・長期計画」以来、現在まで市民参加・議員参加・職員参加による「武蔵野市方式」と呼ばれる計画策定に取り組み、「市民自治」を原則として、長期計画に基づく計画的な市政運営を進めてきました。

現在は、平成 30（2018）年度から 2 カ年度をかけて、令和 2（2020）年度を初年度とする「第六期長期計画」の策定作業に取り組んでいます。

今回の地域ワークショップ（以下、「ワークショップ」という）は、長期計画策定における多様で広範な市民参加手法の一つとして、初めての試みとして武蔵野市で市民活動を行っている団体の方々を対象に実施しました。第六期長期計画「計画案」について、地域で活動されている方々に周知すること、地域の実状をよく知る方どうしで話し合っていた、その内容を計画策定の参考にすること、さらには市民活動団体どうしの横のつながりを促すことを目的として実施したものです。

募集方法

平成 31（2019）年 2 月に実施した「第六期長期計画討議要綱に関する関係団体意見交換会」へ招聘した団体（819 団体）に対し、案内通知を発送しました。

なお、申し込みは原則として各団体 1 名（代表者に限らない）までとしました。

応募者の内訳

当初の定員（60 名）を超える 63 名の応募があり、全員を参加者として決定しました。年代ごとの内訳は以下のとおりです。

区分	人数	割合
～20 代	1 名	1.6%
30 代	1 名	1.6%
40 代	6 名	9.5%
50 代	10 名	15.9%
60 代	20 名	31.7%
70 代～	15 名	23.8%
80 代	10 名	15.9%
全体	63 名	

日時・場所等

日時 6月23日(日) 午後1時～午後5時
場所 市役所 811 会議室
参加人数 56名 (12グループ)

プログラム概要

目的・趣旨説明・進め方の説明
自己紹介
長期計画の説明・各テーマの説明
ワーク① 理想の地域像・ありたい姿
ワーク② 理想の地域像・ありたい姿の「登場人物(団体)」とは?
ワーク③ 私たちがこれからやりたいこと
ワーク④ やりたいことに向けて、必要なこと・課題
ワーク⑤ ワークショップを通じて得た「学び・気づき・感想」
全体共有

2. 実施詳細

STEP 1 ワークショップの成果物・進め方

- ・事務局(企画調整課)から1日の流れを説明した後、全体進行を担当する市民ファシリテーターからワークショップの成果物と進め方を説明しました。

- ①対話のルールの説明(相手の意見を否定せず尊重するなど)
- ②意見を付せんを書いて模造紙に貼りながらグループで対話を行う
- ③各グループ1名ずつの市民ファシリテーターが対話のサポートを行う

- ・ワークショップでは、第六期長期計画の計画案から、以下の6つのテーマを設定し、参加者どうしで意見交換を行いました。

子ども・子育て世代への支援(グループ1、2、3)
地域の担い手の発掘・育成(グループ4、7)
公共施設再構築の住民合意のプロセス(グループ5)
地域の防災・安全への取り組み(グループ6、9)
緑・環境を守る取り組み(グループ8)
市民活動団体の相互連携(グループ10、11、12)

- ・成果物として、それぞれのグループで、以下のような模造紙を作成することとしました。

本日の成果物のイメージ

  理想の地域像 ありたい姿  	  理想の実現の ために やりたいこと 	  実現に向けて 必要なこと・ 課題 
---	--	--



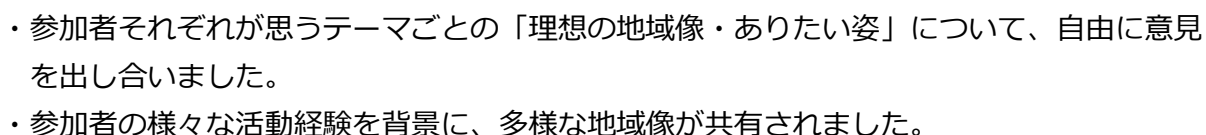
STEP 2 自己紹介

- ・各グループにおいて自己紹介からスタートしました。参加者自身と武蔵野市との関わり、団体紹介、今後やりたいことなどを紹介しました。また、ワークショップを通して活用する付せんの練習も兼ねて実施しました。
- ・市民ファシリテーターの奥野依理子さんの全体進行に加え、各グループの市民ファシリテーターの進行により、和やかに対話がスタートしました。

STEP 3 長期計画の全体像と各テーマの説明

- ・事務局（企画調整課）から、長期計画の全体像や今回のワークショップの位置付けなどを説明しました。

- #### STEP 4 ワーク① 武蔵野の「理想の地域像・ありたい姿」



SETP5 ワーク② 理想の地域像・ありたい姿の「登場人物（団体）」

- ・ワーク①の「理想の地域像・ありたい姿」をもとに、そこに関わる「登場人物（団体）」についてイメージをふくらませて、意見を出し合いました。
- ・非常に多岐にわたる人物や団体が挙がり、各グループの視野が広がりました。
- ・それぞれが出し合った人物や団体の模造紙を眺めた上での学び・気づきを共有しました。

SETP6 ワーク③ 「私たちがこれからやりたいこと」

- ・「理想の地域像・ありたい姿」を実現するために「私たちがこれからやりたいこと」について意見を出し合いました。
- ・行政への要望にとどまらず、市民活動団体らしい、自分自身のアクションとして考えられた意見も多く挙がりました。

SETP7 ワーク④ 「実践に向けて必要なこと・課題」

- ・これからの実践に向けて「必要なこと・課題」について話し合いました。
- ・地域の担い手や情報発信、団体同士の連携の重要性など、様々な課題が提示されました。

SETP8 ワーク⑥ 全体を通した「学び・気づき・感想」

- ・ワークショップ全体を通した「学び・気づき・感想」を共有し、この場に参加したことから得られたものを話し合いました。
- ・各グループからの全体への共有では、以下のような発表がありました。

子ども・子育て世代への支援

グループ1

- ・子育て世帯が自ら困っていることを声として挙げるにはハードルがあるので、まずは保育所・小学校など必ず行かなければならない接点が重要になる。また、そういった声を挙げたい・相談したいと思えるような魅力的な場をつくることが必要。
- ・まずは自分たちの子育て支援の現場を全うし、さらに地域の市民としての自覚を持って、市民参加の場に参画することが大切だと思った。
- ・きっかけは子どものためではなくても、自分自身が楽しく地域の人たちとつながりを持てるような活動に参加していく。

グループ 2

- ・ 有意義なディスカッションができて、こういう機会をいただけたことに感謝している。
- ・ 子どもから見て「顔が見える大人になる」ということが最も重要なのだと思った。
いろいろな役割・関わりがある大人たちが子どもたちに顔を覚えてもらって、地域の中でのつながりに活かしていく。
- ・ その関わりが多世代にわたっていて、多様な視点を得られて、大人同士もつながっていて次世代に継承していくことが必要になる。
- ・ 私たち自身が、勇気をもって一步を踏み出す、そして私たち自身が楽しむということが大きな気づきだった。

グループ 3

- ・ 情報の発信・共有が最も大切だという意見が出た。
- ・ 一步踏み出す、ニーズを知るための、声かけがまず重要。
- ・ 市役所への要望はみんなでパブリックコメントを出そうという話になった。
- ・ ファシリテーターの方にも意見のまとめを大変助けてもらった。

地域の担い手の発掘・育成

グループ 4

- ・ 今回の話し合いを通じた最大の収穫としては、非常に困っている課題を共有できたこと。
- ・ 市民のニーズをいかに探っていくかということが重要。
- ・ 実は地域には何かをやりたいと思っている人はいる。しかし、新しいことを受け入れづらい風土があり、担い手を摘んでしまっている場合がある。確信を恐れず、地域も意識を変え、効率的な運営をしていくことが必要。

グループ 7

- ・ 多様な人が参加してグループで議論できてよかった。
- ・ 担い手の発掘・育成は非常に深刻。
- ・ どういう人が求められているか、常に情報を発信できるような媒体が重要だという話になった。
- ・ お互いに認め合う・褒め合うことが必要だし、長く活動している私たち自身がそれぞれ生き生きとしながら続けたい、新しく入ってきてもらう人にも生き生きと活動できる場を提供したい。

公共施設再構築の住民合意のプロセス

グループ 5

- ・登場人物がたくさん出てきたが、市長・議員に意見を伝えるために、整理・集約する意見が出てきて学びになった。
- ・コミュニティづくりをしていくために、まずは共通の趣味や楽しさを基礎にしていく。
- ・これを策定委員会がどう活かしていくか、どういう反応があったか、しっかりと情報公開していただきたい。

地域の防災・安全への取り組み

グループ 6

- ・まずは自分の命を助けるという自助。
- ・一番の問題としては、それぞれの防災に関する情報や動きをどうまとめていくのか。
- ・最後には、互いに助け合うための自助・共助が大切だということが共通した。ただ、これをいかに実現していくか、ということには課題がある。防災というものは難しい。

グループ 9

- ・はじめは市への要望なども出ていたが、私たち自分自身でやるべきことがあるのではないかと気づいた。
- ・まずは自分自身がやる・防災訓練などに参加する。コミセンなどの地域の集まり・グループで備える。消防署などの専門家の助けをもらう。
- ・情報の発信・連携、人・団体の連携を進めていきたい。
- ・最後には、未来の武蔵野市の防災のために、高齢者だけではなく子どもたちに重点を置きたいという話になった。

緑・環境を守る取り組み

グループ 8

- ・グループに集まっていたのは緑・環境の専門家の方々と、学びながら過ごすことができた。
- ・とにかくこれ以上まちの緑を減らさないでほしい。緑豊かな武蔵野市を未来につくっていききたい。

- ・いま実際にそれぞれがやっている活動を、少しずつ横につなげて、同じ方向を向いてやっていくことが必要だと思った。

市民活動団体の相互連携

グループ 1 0

- ・相互連携をする上でどんな団体があるかということを知り合えていない。情報の一元化・一覧化ということが必要ではないか。武蔵野プレイスや社会福祉協議会など、それぞれの登録団体が情報共有されるだけでなく、一元化されると良い。
- ・視覚障害当事者のひとりとして、多様な人がしっかりと情報を受け取れるということ望んでいる。

グループ 1 1

- ・いろいろな方のいろいろな視点で意見が集まって、良いアイデアがたくさん出た。
- ・市の職員にも市民活動団体の真剣さを見てもらえたとも思う。
- ・このような交流が世代間交流の基礎だと思う。
- ・団体を入りやすく抜けやすい場にしたい。自由な部分があるということは重要。

グループ 1 2

- ・これだけ多くの団体が集まって、このパワーを使わない手はない。相互連携を図っていきたい。
- ・市役所で音頭をとっていただけると良い。市民の自主性を重視していてあまり前面に出ていないかもしれないが、市役所の役割は大きい。交流の場もつくっていただきたい。
- ・こういう機会をいただけて、少しは市政に参画できたという時間を持つことができて、大変楽しい時間だった。

3. ワークショップを通じた意見のまとめ

ワークショップでは、以下の6つのテーマについて、各グループでディスカッションを行いました。

- ・子ども・子育て世代への支援（グループ1、2、3）
- ・地域の担い手の発掘・育成（グループ4、7）
- ・公共施設再構築の住民合意のプロセス（グループ5）
- ・地域の防災・安全への取り組み（グループ6、9）
- ・緑・環境を守る取り組み（グループ8）
- ・市民活動団体の相互連携（グループ10、11、12）

次ページ以降にまとめた内容を記載しています。

子ども・子育て世代への支援（グループ1）

理想の地域像・ありたい姿

子育て支援

- ・働くママの相談窓口
- ・働くママの交流会
- ・子育て中のお母さんへの支援
- ・子どもの一時預かりのできる場所

地域のつながり・交流

- ・信頼関係を互いに持てる人間関係づくり
- ・顔見知りが多い関係
- ・高齢者との連携
- ・多世代交流ができる場所

教育

- ・「生きる力」もっと自然の中で自由に遊べる時間と場所
- ・具体的な事物に触れ合える
- ・子どもの忙しさをなくす
- ・戦争の加害について学ぶ

理想の実現のためにやりたいこと

相談・情報

- ・相談窓口になる
- ・子育てで困っていることを聞く
- ・保護者と子ども以外のお話をしてみる
- ・家の中にこもりがちな母親たちの支援
- ・地域の情報を集めておく

居場所・イベント

- ・子どもも大人も居心地が良い場所にする
- ・コミュニティスペースに立ち寄る理由をつくる
- ・高齢者から子どもまで集まれる場所をつくる
- ・大人だけのクラフトビール愛好会
- ・誰でも参加の木エクラブ
- ・お昼ご飯食べようツアー
- ・誰でも参加BBQ
- ・コーヒーと焼き菓子をつくってみる

協働・市民参加

- ・協働の関係づくり
- ・市民参加
- ・地域住民としての自覚を持つ
- ・地域・子ども館への参加
- ・大学生ボランティアに手伝いを願う

実現に向けて必要なこと・課題

- ・子どもが豊かに育つことが豊かな地域をつくる
- ・子ども・先生の多忙化の解消
- ・教職員の増員
- ・丁寧に教えてくれる人
- ・学習内容の軽減
- ・自己実現
- ・業務のICT化
- ・情報をまとめたサイト
- ・国・都・市・民間のお金をまとめる
- ・助成金
- ・勇気
- ・時間
- ・人とのつながりを広げる

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・母親
- ・父親
- ・祖父母
- ・乳幼児
- ・小学生
- ・教職員
- ・保育士
- ・介護士
- ・市の職員の増員
- ・保育のアドバイザー
- ・先輩ママ
- ・コーディネーター
- ・コミセンのおじさんおばさん
- ・高齢者の語り部・遊びの達人

施設・団体

- ・保育所
- ・幼稚園
- ・小学校
- ・児童館
- ・市民会館
- ・寺院
- ・神社
- ・集まりたくなる心地よい場所
- ・自由に使える場所
- ・開かれたイメージ
- ・子育て関連が一箇所に集まっている

子ども・子育て世代への支援（グループ2：1/2）

理想の地域像・ありたい姿

地域のつながり・交流

- ・人が近い
- ・近所に知り合いがいる
- ・地域のリーダーがいる・見える
- ・相談できる・頼れる人がいる
- ・田舎っぽい温もり
- ・スマイル！
- ・世代を超えてつながれる
- ・世代間交流が盛ん
- ・世代を問わずに遊べる

多様性・関係性

- ・多様性
- ・「ねばならない」ではない
- ・認め合う
- ・変化を楽しむ
- ・分けない
- ・制服が嫌だ
- ・大人も遊ぶ
- ・夫婦仲良く
- ・ゆとりある
- ・気軽に

地域全般

- ・交通・買い物が便利
- ・安心・安全、電柱撤去、道幅が広い
- ・水道水の美味しさの維持
- ・公園の害虫対策
- ・担い手に困らない、若い世代が活躍

理想の実現のためにやりたいこと

居場所・イベント

- ・多世代交流サロン
- ・地域のお茶会
- ・誰でも食堂
- ・ようこそ先輩
- ・みんなのカフェ
- ・子どもキャンプ、登山
- ・おしゃべり会、飲み会、座談会
- ・多言語運動会
- ・子育て応援講座・WS
- ・国際理解授業
- ・ゲーム会、ボードゲーム

協働・市民参加

- ・利害関係なく積極的に関わる
- ・地域で子育てしている姿をアピール
- ・楽しんで活動する
- ・自分のマインド
- ・ボランティア
- ・ねぎらう
- ・敬う
- ・共感
- ・よりそい
- ・平らに接しあえる人
- ・顔と名前を覚える
- ・笑顔
- ・世代関係なく活動できる環境を整える
- ・変えていく姿を見せる

実現に向けて必要なこと・課題

- ・勇気
- ・わからないから一歩が踏み出せない
- ・忙しい母をやる気にさせること
- ・学童じゃないので人を呼べない
- ・継続的な担い手
- ・人員
- ・運営する人、参加する人
- ・地域団体の相互交流
- ・つながり
- ・人の定期的な確保
- ・スペース
- ・公的施設の提供
- ・場所の定期的な確保
- ・PR・情報発信
- ・周知方法
- ・使いやすいフィードバックの仕組み
- ・会議前の雑談
- ・寄付
- ・経費
- ・お金
- ・寄付などの行いやすい法整備

子ども・子育て世代への支援（グループ2：2/2）

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・住民（老若男女）
- ・市民一人一人
- ・子ども
- ・中高生
- ・大学生
- ・お父さん・お母さん
- ・お母さん同士
- ・おじいちゃん・おばあちゃん
- ・保育士
- ・学校の先生
- ・学校に一人いる地域コーディネーター
- ・地域住民・市民
- ・近所のうるさいおじさん
- ・家族以外の大人
- ・コミセンの役員
- ・コミセン祭り実行委員長
- ・商店街の人
- ・市の職員
- ・リーダーについていくフォロワー
- ・次世代の担い手
- ・自分たちで地域を変えていく人
- ・ジャンボリーに関わる人
- ・地域をつないでくれる人
- ・顔が見える関係
- ・みんなの余裕を引き出せる
- ・話を聞いてくれる人
- ・悩みを聞いてくれる人
- ・一緒に楽しんでもくれる人
- ・助けたり助けられたりできる人
- ・忙しくてなかなかつながりがないよね
- ・地域に関わろうとしない人の存在
- ・経験者は一歩引いて若い人に任せる

施設・団体

- ・コミセン
- ・保育園
- ・武蔵野市
- ・教育委員会
- ・東京電力
- ・PTA
- ・青少協
- ・地域の団体
- ・ひまわりまま
- ・ヒッポ
- ・2中

子ども・子育て世代への支援（グループ3：1/2）

理想の地域像・ありたい姿

子育て支援

- ・母親がリラックスできていることが子育てでは一番
- ・公園増設
- ・児童館増設
- ・活動できる場所がある
- ・受け入れるお店・交通
- ・子育て周辺の環境（公園）
- ・相談支援のあり方
- ・子育て相談をもっと身近に
- ・相談先の整理
- ・兄弟子育ての相談
- ・0123での子育て相談をもっと詳しく
- ・支援体制の宣伝を
- ・人権その他相談をサンダルばきで
- ・保育の質を高める
- ・家賃を安く
- ・予算をつけて環境整備・基盤をしっかりつくる

地域のつながり・交流

- ・わかりあえる・身内になれる
- ・助けてくれる仲間がいる
- ・顔見知りになる
- ・地域の理解
- ・子どもを受け入れられるまち

教育

- ・教育と福祉の連携
- ・消費者教育を市全体で取り組む
- ・生きる力をソフト面で教育

理想の実現のためにやりたいこと

居場所・イベント

- ・女の子のヘアアレンジ講座
- ・イベントのヘアセット
- ・ポイントメイク
- ・親子ヘアCut
- ・リラックスヨガ
- ・親と子など世代を超えた講座
- ・障害や人権を学ぶ講座
- ・食・環境の安全性
- ・クイズから考えて理想の地域・やさしい地域へ
- ・いい親になりすぎない・休む

協働・市民参加

- ・顔を出す
- ・つながる
- ・話をする・聴く
- ・仲間を増やす
- ・うわさを広める
- ・少しずつイベントに参加
- ・参加しやすいようにする
- ・参加してよかったものを広める

実現に向けて必要なこと・課題

- ・きっかけ
- ・一歩を踏み出す
- ・参加する
- ・ニーズを知る
- ・巻き込む
- ・声かけ
- ・手を差し出す
- ・損得勘定
- ・小さなことを意識
- ・情報の収集
- ・情報の共有
- ・情報の発信
- ・行動の発信
- ・生の声
- ・うわさ
- ・市報詰め込みすぎ
- ・有名人

子ども・子育て世代への支援（グループ3：2/2）

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・ 児童・生徒
- ・ 友人
- ・ 他人
- ・ 子ども同士
- ・ 心理カウンセラー
- ・ 子育てのプロフェッショナル
- ・ 助産師
- ・ ママ友
- ・ パパ友
- ・ 民生委員
- ・ 団塊の世代
- ・ 地域コーディネーター

施設・団体

- ・ 行政
- ・ 市役所の各課連携
- ・ 文科省
- ・ 法務省
- ・ 武蔵野プレイス
- ・ 交流都市
- ・ 公園
- ・ 消費生活センター
- ・ コミセン
- ・ 青少協
- ・ PTA
- ・ 商店
- ・ 飲食店
- ・ 駄菓子屋
- ・ 社会福祉法人
- ・ イベント企画団体
- ・ ミニクラシック楽団
- ・ 路上クラシック
- ・ 障害児が前に出る場
- ・ 専用アプリ
- ・ 市報
- ・ Facebook

地域の担い手の発掘・育成（グループ4）

理想の地域像・ありたい姿

協働・市民参加

- ・主役は市民
- ・マッチングサービス
- ・様々な世代の参加を活かす
- ・幅広い年齢層
- ・助けられるばかりではなく
- ・世代を超えた福祉の環
- ・市の職員が地域で住民と一緒に語り合う周回

団体・活動の活性化

- ・団体の活性化
- ・活動して楽しい
- ・良いつながり
- ・OPEN・公平・楽しいコミセン

シニアの力

- ・小学生の現場学習に毎回200人
- ・現役時代の経験・キャリアを生かしてほしい→生きがいにつながる
- ・高度の専門性でなくてもいい
- ・老人が楽しく暮らせる社会
- ・体の具合が悪い人も地域に

理想の実現のためにやりたいこと

ニーズ把握・PR

- ・市民ニーズの把握とPR
- ・活動のPR
- ・若い担い手が集まれるようなPRの方法
- ・若い人への呼びかけ

団体・活動の活性化

- ・事業・運営のイノベーション
- ・会の和をよくする
- ・会の健康につながる活動

実現に向けて必要なこと・課題

- ・意識改革
- ・新しいことを拒絶しない
- ・失敗を恐れない
- ・意見を受け止めてくれる人が半分ぐらいいるといい
- ・担い手発掘の新しいPR方法は？
- ・ニーズの把握
- ・市民個人のニーズの把握
- ・ニーズの聞き取り
- ・若い人に任せる
- ・若い人の確保
- ・スタッフになり手が少ない
- ・学びの機会の連携
- ・団体の運営方法
- ・リーダー教育
- ・運営ノウハウを学ぶセミナー
- ・場所の確保

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・能力のある人が活動に参加してくれる
- ・マネジメント力がある役員
- ・協力員や運営委員はいる
- ・学びたくしてくれる外部の人
- ・あらゆる世代
- ・新規人材
- ・定年後の人
- ・潜在する人材を市民が発掘
- ・働きながらも地域に関心を持ち活動できる方法を考える
- ・団体の役員の不足
- ・なり手がいない実情が深刻
- ・やりたいこと別人材バンク
- ・時間がなくても地域に関われる

施設・団体

- ・コミセン
- ・コミセンは運営だけでいっぱい
- ・いっぱいのところも
- ・青少協
- ・福祉の会
- ・市の無料施策はPRの芽を摘んでしまっている

地域の担い手の育成・発掘（グループ7：1/2）

理想の地域像・ありたい姿

市民参加・つながり

- ・ひとりひとりのいきいきとした活動の場がある
- ・真の多様性を理解した市民参加の姿
- ・子育てにも高齢者を活用
- ・高齢者と若い人がともに協力し合い自分の住んでいるまちをより良い安全な住みやすいまちに
- ・若い世代がコミセンを利用するだけでなく運営に積極的に参加してほしい
- ・子どもの頃から地域活動に親しむ→大人になっても無理のない範囲
- ・市民それぞれが小さな活動をしている
- ・一人一人が自分のこと以外に協力する心を持つ
- ・人のため・自分のため気持ちよく
- ・住み続けることでみんなが愛着・誇りを感じられる
- ・行政視点の市民活動ではなく、市民視点の活動が多い市
- ・市民自治とは行政が市民に求める役割ではなく、市民の自覚・自律的活動
- ・地域の方がみんなあいさつを返し、顔が見える関係性
- ・地域の交流が多く安全・安心な暮らし

市民活動運営

- ・問題に出くわしても、解決した上で活動が続けられる地域
- ・互いに一兵卒の気持ちを忘れずにいられるリフレッシュできる仕組み
- ・どこよりも市民活動が多い市
- ・補助金ではなくクラウドファンディングが多い市

情報発信・マッチング

- ・市民活動情報が多くの人の目にとまる環境
- ・やりたいこと・ニーズが見つけやすい仕組みがある

行政の支援

- ・地域の自主的な活動に対しきめこまやかな支援が得られる
- ・行政が市民の力を信じている市

理想の実現のためにやりたいこと

担い手の発掘・参加の入り口

- ・イベントの活用・楽しさの演出
- ・キャリアの浅い人だけが参加できるスキルUPや情報交換の場づくり
- ・広い世代に活動をプレゼンする場
- ・担い手を増やす呼びかけをして豊かな活動をしたい
- ・地域活動について若い人の意見を聞きたい
- ・私のまわりの人は少し休ませてあげたい
- ・小さな仕事をつくる
- ・ボランティアを小さな単位で募集する
- ・一人でも多くの人に関われる仕組み
- ・理解し合う
- ・同じ考え方の仲間を増やす
- ・災害時にも手を動かせる・高齢者の見守り・支え合いができる人を増やしたい
- ・様々な活動に興味を持ちつながりをつくる
- ・それぞれの活動の歴史やまちの歴史について学び・広げる

情報発信・マッチング

- ・各団体をつなぐシステム
- ・やる気とニーズをつなげる場づくり
- ・具体的なボランティアリストをいつでも見られるようにする
- ・子育て世代と地域のお店をつなぐ
- ・子育て世代と団体や活動をつなぐ

実現に向けて必要なこと・課題

- ・人の意見を尊重する・ほめる
- ・お互いの意見に耳を傾ける
- ・尊重しあう
- ・お互いに思いやることが大事
- ・浅く広くでも少しでも始めることで変わるかも
- ・できる小さいことから
- ・ハードルを下げるための努力
- ・広げることでハードルを下げられることも
- ・お金を稼げるボランティア
- ・自分が好きなことをできるボランティア
- ・コミセン活用の意識変革（レンタル→シェア、借りる→共有）
- ・地域のシェアリングの意識
- ・住民意識の変革・住むことの意味
- ・啓発活動
- ・発信を受け止める行政の力
- ・みんなで話し合う場
- ・話し合いをする場所の設定
- ・課題の共有・解決への手順
- ・若い人に地域資源の大事さを知ってほしい
- ・情熱
- ・やる気

地域の担い手の育成・発掘（グループ7：2/2）

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・社会人
- ・壮年
- ・働き盛りの40-50代
- ・在勤者
- ・子育て世代
- ・男性高齢者
- ・行政の人
- ・市民活動に入り込む行政職員
- ・生活視点を持つ行政職員
- ・定年退職者ばかりではなく勤めている人も
- ・学生
- ・高齢者の話を聞いてくれる大学生
- ・子ども
- ・問題解決を手伝う専門職
- ・幼児以降の市民全員
- ・活動意欲のある市民
- ・喜んでボランティア活動できる人
- ・コーディネーター
- ・ほめる人
- ・寛容な人
- ・新しいものを否定しない人
- ・適材適所を考えられる人
- ・気軽に一緒にスポーツしてくれる人

団体

- ・コミュニティ協議会
- ・町内会・自治会
- ・社会福祉協議会
- ・青少協
- ・地域内の各団体
- ・企業
- ・公共スペースの管理者
- ・市民の声に真摯に対応する行政

公共施設再構築の住民合意のプロセス（グループ5：1/2）

理想の地域像・ありたい姿

公共施設のあり方

- ・類型別公共施設
- ・これからの公共施設は多機能が良い
- ・井の頭公園と調和のとれた場所である公会堂を活用する
- ・集客力のある吉祥寺を活用する
- ・芸術価値の高い貯蔵されている作品があるのでは？
- ・コミセンでハードなスポーツができるスペースのある建物
- ・つくる時の費用が大でも長い目で見るとコストが低い
- ・学校の統廃合の距離の問題と児童の安全確保
- ・大きい施設で施設も広ければ、騒音問題も少ないのでは
- ・公共施設の設置場所の公平・分散化

合意のプロセス

- ・公共施設のあり方WS
- ・市からの一方的ではない説明
- ・情報公開・提供
- ・行政→議員の民意を組んだ説明

まちづくり

- ・吉祥寺のまちづくり
- ・道路の整備
- ・コミュニティづくり
- ・地域の学校
- ・インクルーシブ教育
- ・建物だけではなく道路を考えたい
- ・段差の大きい道は利用しづらい
- ・幅広い世代が利用・出入りできる
- ・吉祥寺東の1丁目市有地の活用
- ・将来を楽しく話せる場
- ・静かで自然豊かな文化都市
- ・死ぬまで住みたいまち
- ・住み続けたいまち

理想の実現のためにやりたいこと

合意のプロセス

- ・市民ベースでの受け皿づくり
- ・会として地域住民にアンケートをとる
- ・地域懇談会で話し合ってみる
- ・広報誌で地域の方々に知らせ反応を待つ
- ・他の団体に協力を呼びかけていく
- ・地域の支え合いについて、個人情報の問題もあるが率直に聞きたい

コミュニティ・イベント

- ・コミュニティ活動
- ・場づくり・仲間づくり
- ・楽しく活動する
- ・コミセンなどお祭り・場づくり
- ・同じ趣味の人による地域交流
- ・コーラス、お花、俳句、囲碁、将棋
- ・福祉の会
- ・秋祭り
- ・マッチング

教育・人材育成

- ・武蔵野市民としての誇り・愛着心を育む
- ・教育委員会「市民科」に期待
- ・教育への協力
- ・市民向け説明力・コミュニケーション力・論点整理力の勉強会の開催

まちづくり

- ・地域のまちづくり
- ・ふるさと武蔵野
- ・地域活性化に尽力する
- ・弱者への配慮のできるまち
- ・健常者も弱者もともに暮らせるまちづくり
- ・自身からまちを歩く

実現に向けて必要なこと・課題

- ・コミュニケーションの取り方
- ・お互いの意見を聞く姿勢
- ・豊島区に学ぶ
- ・市民と市外のバランス
- ・理想は口に出そう・書こう
- ・無駄のようでも希望は出そう
- ・欲張ってみよう
- ・他の人の希望を聞くと影響されるのが良い
- ・希望を表明する場の設定
- ・長期的な視点
- ・親世代の教育
- ・将来の子どもたちに伝え残すことのできる
- ・地域での子育て
- ・世代を超えたネットワークづくり
- ・子どもが安心できる大人を知っている
- ・マッチング機構の構築
- ・ユニバーサルデザイン
- ・基本的なまちづくりの考え方
- ・安心・安全なまちづくり
- ・防災・防犯
- ・交通ルールの遵守・マナー向上
- ・安全を通じての人のつながり
- ・ターミナルが必要
- ・井ノ頭通りのバス停
- ・電線の共同溝化

公共施設再構築の住民合意のプロセス（グループ5：2/2）

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・住民
- ・全ての世代の市民
- ・マンション住民
- ・パラリンピックを意識できる人
- ・市長
- ・政治家としての市長
- ・市民が選んだ議員
- ・レモンキャブ利用者
- ・ドライバー
- ・交通弱者
- ・文化の担い手
- ・地主さん
- ・地域計画プランナー
- ・都市計画・建設関係の人

- ・メリット・デメリットを整理して公開する人
- ・いろんなことを相談できる人
- ・反対するより
- ・防災に長けている人
- ・スポーツ経験者
- ・駅に行く人
- ・ムーバス沿線の人
- ・元気で動き回れる高齢者
- ・買い物する人
- ・説明スキルのある行政職員
- ・様々な意見を取りまとめるスキルのある行政職員

施設・団体

- ・まち協
- ・開発公社
- ・武蔵野市の文化を考える市民の会
- ・企業
- ・商店会
- ・大小の商業者
- ・コミュニケーションをとれるお店
- ・ゼネコン
- ・大手ディベロッパー
- ・不動産
- ・バス事業者
- ・行政機関をまわるバス
- ・吉祥寺の駐車場
- ・井の頭公園
- ・公会堂
- ・文化団体
- ・文化振興基本方針
- ・行政
- ・総合政策部
- ・都市整備部

地域の防災・安全への取り組み（グループ6）

理想の地域像・ありたい姿

日常の備え

- ・まず自助、共助の前に近助
- ・自助の強化で身を守る
- ・つながりある近所との顔の見える
共助の力
- ・地域の防災は地域で行う！
- ・お互いが助け合う活動
- ・組織にダブル加入している人が多い
- ・消防用具の地域への大量配置
- ・管制の計画の問題点はないのか？
- ・より弱者な方々への安心の提供

災害発生時の対応

- ・被害想定がわかる
- ・発生時の初期に必要な避難
- ・突発して起きる出来事への対応
- ・復興への道筋がわかる
- ・在住勤務医の活用

理想の実現のためにやりたいこと

自助

- ・現状把握
- ・情報収集
- ・地域資源を知る
- ・自助努力

共助・防災

- ・隣近所の助け合い組織を立ち上げる
- ・自主防災会を市内全域につくる
- ・防災会の支援
- ・初動要員を含めた抜き打ち訓練の実施
- ・防災・災害対策訓練の強化
- ・机上訓練の実施
- ・状況把握能力の向上
- ・取りうる対処策のためのイメージトレーニング
- ・防災訓練
- ・啓発活動

市政

- ・税を無駄にしない適正な施設の整備
- ・選挙（民主主義）

実現に向けて必要なこと・課題

- ・最大限の自助の実践が共助につながる
- ・防災備品と環境づくり
- ・標識の整備
- ・東京防災（冊子）
- ・小学生からの防災教育
- ・小中学生・町内会などへの具体的な教習
- ・地域によって関心に温度差→全市で共有
- ・行政の中での議論・アップデート
- ・公開されたことを議論すること
- ・公助の災害時活動を市民に説明
- ・安全な経路を事前に地域で考える
- ・支援者が必ず駆けつけられる仕組み
- ・弱者のみ使用できる仕組み
- ・伝言システムの地域ごとの仕組み
- ・情報が集約できる場所を決める
- ・できること・できないことの明確化
- ・事態が起きてからの仕事・役割
- ・災害時のリーダーづくりが安全・安心につながる
- ・防災を常に心がけ、話し合う場をつくる
- ・PDCA

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・発災後に手を挙げたリーダー
- ・防災組織の関係者
- ・防災推進委員
- ・訓練を受けた中学生
- ・市民以外の被災者
- ・民生委員
- ・地域住民のまとめ役
- ・医者

施設・設備・団体

- ・消防署
- ・消防団
- ・自主防災組織
- ・保健所
- ・学校
- ・支え合いステーション
- ・福祉の会
- ・避難所
- ・水道
- ・トイレ
- ・防災無線
- ・ホワイトイーグル
- ・ブルーキャップ

地域の防災・安全への取り組み（グループ9）

理想の地域像・ありたい姿

防災

- ・防災家庭支援
- ・防災訓練
- ・防災訓練による啓発
- ・防災相助体制
- ・防災救急体制
- ・防災組織の連携
- ・避難所の充実
- ・市として原点に戻って計画づくり

防犯

- ・防犯パトロール体制
- ・防犯学校
- ・防犯カメラ設置
- ・防災家庭支援

つながり

- ・横のつながりがあるまち
- ・近隣住民の顔と名前がわかる
- ・市民参加は継続的なものに

理想の実現のためにやりたいこと

自助・備え

- ・防災訓練の整備
- ・地震対策
- ・災害備蓄
- ・市営マンションの防災の話し合い
- ・もう一度家庭の防災
- ・家庭・家族内で話し合い
- ・いざという時は自分自身で
- ・防災・防犯パトロール
- ・救急法の習得
- ・AEDの使い方
- ・各団体の技能・技術を活用する

共助・つながり 市民参加

- ・関連行事への参加
- ・お祭りも役立つ
- ・コミセン広報誌で呼びかけ
- ・コミセンの運営委員としての啓発
- ・市政の主役は自分たちと自覚して自分たちでやるべきことはやる
- ・地域人材の活用
- ・子どもたちの生活力アップ
- ・防災・防犯ボランティア
- ・地域の人の見守り
- ・地域の人と人のつながり
- ・ご近所同士のあいさつ
- ・選挙権の行使
- ・市への情報提供
- ・地域の人への情報提供

実現に向けて必要なこと・課題

- ・家庭でキャンプ・食事
- ・お祭りへの参加の体験
- ・路地を通行止にしてお茶会・子ども会
- ・できるだけ多くの参加者
- ・転入者にあいさつをするきっかけ
- ・地域で育てる
- ・子どもへの指導
- ・子どもたちの生活を向上
- ・口うるさいおじさんおばさん
- ・学ぶ
- ・講習会への参加
- ・コミセンの役割
- ・行政の役割
- ・市の理解

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・ママ友パパ友
- ・保育士・教員・学校関係者
- ・病院関係者
- ・ボランティア
- ・民生委員
- ・民間パトロール
- ・防災リーダー
- ・リーダーの存在・育成
- ・団体の責任者
- ・市職員・公共施設職員
- ・市長
- ・元市長
- ・市議会議員
- ・大きなことを出す人はだめ
- ・男性より女性の方が視野が広い
- ・具体的な指示が出せる人

施設・設備・団体

- ・単独ではなく連携を！
- ・団体間をまとめていく
- ・消防団
- ・コミセン
- ・PTA
- ・町内会
- ・マンション組合
- ・スポーツ関係団体
- ・民間企業
- ・介護施設
- ・市の体制・役割

緑・環境を守る取り組み（グループ8：1／2）

理想の地域像・ありたい姿

緑・農地

- ・緑のあるまち
- ・すてきな桜並木をずっと保って
いけるまち
- ・自然体験ができるまち
- ・地域住民が公園・緑地のお世話を
して、みんなで仲良くつながる
地域
- ・まちの歴史と緑をみんなで学ぶ
- ・ムダなお金を緑にまわして
- ・緑にはお金を使ってOK
- ・物を配らない・その予算は緑化
推進に
- ・子どもが草花で遊んだり昆虫探
しをしたりできる地域
- ・電柱を減らして緑が眺められる
街並み
- ・公園・緑地・ビオトープ・玉川
上水・畑・民家の庭などが生き物
の生きる場所としてつながってい
る
- ・農業体験ができるまち
- ・農家さんにも農地の必要性を
- ・農地を逆に増やす（市民農園）
- ・見る側とやる側に分けない
- ・やっててくれてありがとう
- ・市外の人にも見てもらおう

フードロス・生ゴミ

- ・子どもたちに食のルーツ
を伝えられるまち
- ・食べ残しのゴミがどうな
るのか考えることができる
まち
- ・食べることを通してつく
るところから捨てるところ
まで見えるまち
- ・生ゴミ減

フェアトレード エネルギー

- ・フェアトレードが普通に
知られている状態
- ・自然エネルギー100%
- ・どんな人にもやさしいま
ち
- ・お金の優遇も

理想の実現のためにやりたいこと

目標・優先度

- ・数字でわかる目標設定
- ・あるべき姿・具体的目標のマップ化
- ・優先度をどうつける？
- ・進捗を互いに報告しあえる場

環境教育・学び

- ・森の学校（みんなで学ぶ）
- ・エコプラザと協力して水と緑のネッ
トワークづくり
- ・学びの横連携
- ・学校ビオトープの活用提言
- ・学校に協力して緑地での環境教育

ネットワーク・情報

- ・地域の人・子ども・学校のやってみ
たいことを集める
- ・集めたことをつなげる・実現する
- ・人脈を増やす
- ・情報収集・共有・発信
- ・柔軟な考え方ができるように学ぶ

ゴミ・エネルギー

- ・買わない・もらわない・捨てない
- ・もったいない
- ・ごみになるものを配らない
- ・クリーンセンターの電力をもっと広
い地域に広げられないか

実現に向けて必要なこと・課題

- ・活動は一人で取り組むのは厳しい
- ・みんなで一緒にやることが大事
- ・簡単なことの声かけを
- ・しくみ
- ・話すことが楽しいと伝える取り組
み
- ・子どものご両親にどう理解を？
- ・リタイア後の男性の取り込み
- ・お父さんお帰りがささいパーティ
- ・時間・人のつながり
- ・市による場づくり
- ・話ができる場
- ・コミセンや市民発信で、大人と子
どもと一緒に学び
- ・一般市民の巻き込み
- ・優先度
- ・費用対効果
- ・点の活動
- ・目標・方向性

緑・環境を守る取り組み（グループ8：2／2）

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・子どもたち
- ・親
- ・地域のおじさんおばさん
- ・新しく引っ越してきた人
- ・農家の人
- ・市役所の人
- ・教育委員会の人
- ・学校の先生
- ・給食に関係している人
- ・ファシリテーター
- ・現役世代
- ・田中先生

施設・団体

- ・コミセン
- ・市民会館
- ・専門家
- ・市民団体
- ・東京都
- ・武蔵野市の担当課
- ・市役所内部のつながり・連携
- ・公共施設
- ・企業
- ・学校
- ・お店

市民活動団体の相互連携（グループ10）

理想の地域像・ありたい姿

つながり・居場所

- ・居場所のあるまち
- ・挨拶ができる・顔見知りがいる
- ・むこう三軒両隣の助け合い
- ・お年寄りも子どもも仲が良いまち
- ・家族のような地域
- ・ゆるいつながりがある地域
- ・活気があり昔の雰囲気もあるまち
- ・壁のないまち
- ・知らんふりをしない適度なお節介ができる寛容さ

情報発信・市民参加

- ・多方面への伝達手段
- ・市から離れても情報を得られる
- ・情報が伝わる仕組み（広報）
- ・在職中から地域活動ができる体制
- ・男性の育休推進
- ・市議会議員の半分は女性に

多様性・安心安全

- ・心のバリアフリー
- ・多様な人々との交流
- ・障害のある方々も含む交流の場
- ・年齢・性別・国籍・障害の有無も関係なくつながっていく
- ・多様な人々の居場所
- ・安心安全、災害時に助け合うまち
- ・緑の多いまち

理想の実現のためにやりたいこと

つながり・居場所

- ・生きがいづくり
- ・楽しむ、心と体の元気
- ・家ではできないスポーツ
- ・工芸ワークショップ
- ・私自身の活躍の場をつくっていく
- ・講師の育成
- ・シニア学びあいネットワーク
- ・失語症の方への音楽の提供
- ・男の手料理
- ・おばあちゃんのスナック菓子
- ・じじいのおもちゃ修理

情報発信・市民参加

- ・市の活動団体を紹介するWEBサイト
- ・いろいろな団体や個人を必要とされている人につなげたい
- ・市報等が破棄されない
- ・市報等の有料化、文字拡大化
- ・情報を広げる・キャッチする
- ・投票に行く人を増やす
- ・女性市議半数化条例化

多様性・安心安全

- ・多様な人が互いを肯定できる社会に
- ・障害当事者や家族が笑顔になる活動
- ・災害時に必要な支援体制づくり
- ・園児送迎サービス
- ・スクールエンジェル

実現に向けて必要なこと・課題

- ・WEBサイトの管理方法
- ・情報の一元化
- ・WEBサイトにかかる費用
- ・WEBサイトを管理する団体の公募
- ・情報PR
- ・活動している団体と個人の見える化
- ・やりたいこととのマッチング
- ・ボランティアガイド
- ・市民サービスの一体化
- ・アンテナをはる
- ・人の話を聞く
- ・放送で伝える
- ・努力
- ・家族の理解
- ・仲間を手伝う意識
- ・空き家情報の一元化
- ・拠点・場づくり

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・良識ある市民
- ・クォーター制
- ・このワークに参加している、主に女性
- ・人をつなげられるキーパーソン
- ・家事ができるサラリーマン
- ・男も休みをとる
- ・市長
- ・議員
- ・市職員

団体・施設

- ・中間支援団体
- ・ボランティアセンター
- ・コミュニティ協議会
- ・福祉の会
- ・デザイン団体
- ・社会福祉協議会
- ・NPO
- ・アンダンテ
- ・ペピータ
- ・みんなでごはん
- ・クラフトばく
- ・防災団体
- ・ツッテイ
- ・TCTが遅れている

市民活動団体の相互連携（グループ11）

理想の地域像・ありたい姿

つながり・居場所

- ・困った人に声をかけられる
- ・顔見知りの多い地域
- ・あいさつを交わし合う
- ・声をかけあう
- ・田舎・村のようなまち
- ・平和教育
- ・武蔵野が好き・帰ってくる
- ・ひとりぼっちのいないまち
- ・高齢者の心と体の健康
- ・得意を生かして参加
- ・個性が生きるまち
- ・3駅それぞれが高め合う
- ・地域で活動する団体の連携
- ・地域間のつながり
- ・若い世代の参加
- ・世代間交流
- ・コミセンによるつなぎ・情報集約と発信
- ・大人の知恵を分け合う交流の場

子ども

- ・子どもの声が聞こえるまち
- ・子どもたちが遊んでいるまち
- ・ファミリーで公園
- ・親子で活動する場所
- ・学校以外の居場所づくり
- ・小中学校で地域の人と美化活動
- ・子どもの安全

理想の実現のためにやりたいこと

学び

- ・他市の地域にツアーする
- ・武蔵野市をもっと知る
- ・コミセンカウンセリング

困りごと・相談

- ・困りごと案内人
- ・相談アプリ
- ・困りごとヒアリング
- ・世話焼き人養成講座
- ・地域の世話焼き人をつなげる
- ・世話焼きパトロール隊

情報発信

- ・IT化に向けてのスキルアップ
- ・地域メルマガ
- ・「富士見たより」を読んで楽しいものにする
- ・情報デリバリー・連絡方法

子ども

- ・親と子どもの心と体をリラックスさせる呼吸・エクササイズ
- ・お母さん・子どもの居場所
- ・父と子の集まり
- ・老人と若者の交流
- ・「富士見会」の活動

実現に向けて必要なこと・課題

- ・入りやすくぬけやすい団体
- ・コミセンのIT教育
- ・コミセンのためのIT勉強会
- ・コミセンへの近寄りやすさづくり
- ・コミセンにフリーWi-fi
- ・施設の多様化
- ・自由に使用できるパソコンなど
- ・パパの実態を知る
- ・日曜日はお父さんと
- ・地域デザイン事務所
- ・表現力
- ・地域メルマガの立ち上げ
- ・他市のNPO活動との交流
- ・見守り隊
- ・集客力を持つ人
- ・子育て施設
- ・来街者の巻き込み
- ・企業の協力
- ・日中留守がち
- ・地域の人を思う人を知ってほしい
- ・誰が支援者かわからない

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・大人から子どもまで
- ・親子
- ・昔を知るお年寄り
- ・笑顔の人、気さくな人
- ・ほんの少しおせっかいな人
- ・顔が広い世話焼き人
- ・困りごと案内人
- ・地域のリーダー
- ・ずっと住んでいる人
- ・専門家
- ・商店主
- ・アーティスト
- ・働く人
- ・WEBデザイナー
- ・ITを得意とする人
- ・マンション管理人
- ・ユニフォームのママさん
- ・戦争を体験した人

団体・施設

- ・コミセン
- ・人をつなぎやすい場所
- ・NPO
- ・市役所
- ・まちの医者
- ・地域の商店
- ・交番
- ・コンビニや個人のお店
- ・ホワイトイーグル

市民活動団体の相互連携（グループ12）

理想の地域像・ありたい姿

つながり・共助

- ・互いに笑顔であいさつができる関係性
- ・様々な年代・立場の人が参加協働できるまち
- ・時代にあった共助のカタチ
- ・個人の生活に深入りせずに災害時には助け合える
- ・認知症になっても人との関わりで地域で助け合える関係
- ・楽しい時間を共有できる人との絆
- ・コミセン・学校区以外の区割り
- ・年代によって理想が違う
- ・市としてのサポート体制
- ・人が生まれ生きていることが尊重されること
- ・弱者が優しさを感じられるまちづくり

コミュニティ運営

- ・団体役員の担い手の確保
- ・入りやすく抜けやすい地域団体
- ・グループのつながり・横のつながり
- ・気遣いができるコミュニティ
- ・機会あふれるコミュニティ
- ・楽しいコミュニティ
- ・美しいコミュニティ

理想の実現のためにやりたいこと

つながり・共助

- ・地域に孤独な人がいないように見守り
- ・子育て中の親子を支援したい
- ・地域住民との交流
- ・話し相手になる
- ・世代を超えた交流
- ・共生できる遊び場
- ・いろいろな居場所づくり

コミュニティ運営

- ・いまやっている活動を一生懸命に
- ・これからもコミュニティ活動を続けて住みやすい地域にしたい
- ・柔軟な思考・チャレンジ
- ・若い世代を取り込む
- ・活動の継続と若い世代の育成
- ・若い人の負担にならないように
- ・誰でも参加できる茶飲み場の運営

協働・連携

- ・防災を核にしたAll西久保のまちづくり
- ・今まで声をかけてこなかった団体との連携
- ・団体間の交流
- ・目標を同じくする市民団体との協働・連携
- ・人を信じて話ができる場所づくり
- ・テーマ別や地域別の活動のコンビネーション
- ・市や他団体との情報交換の機会

実現に向けて必要なこと・課題

- ・心を聞きにくい・本当は話をしたい
- ・男性は地域の輪に入りにくい
- ・子どもがあいさつをしない時代
- ・同じような思いをしている人の輪
- ・後継者の育成
- ・リーダーの育成
- ・キーパーソン
- ・仲間
- ・人・場所・資金
- ・やる気・健康
- ・まちづくり情報の共有
- ・市民まちづくり講座
- ・継続的な行政の関わり・サポート
- ・市役所の声かけでの団体の交流
- ・コミュニティ構想がネックになっている
- ・行政との協働
- ・行政の方向性を具体的に伝える機会
- ・興味関心のない人に告知する方法
- ・関心をもって参加してもらえる若い世代の参加
- ・市参加の基準づくり

理想の地域像に関わる人・団体

人

- ・市民全員が主役
- ・自分の考えを他者に伝える人
- ・会いたくなる人
- ・話をしたくなる人
- ・元気をもらえる人
- ・課題解決をしてくれる人
- ・立ち入りすぎない人
- ・やさしいだけではない人
- ・常におだやかな心を持っている人
- ・どんな人でも受け入れ可能
- ・人の話をじっくり聞く人
- ・パパママ、ジジババ、子ども
- ・話せる人を育てるプロ
- ・機会を提供する人々
- ・コーディネーター

団体・施設

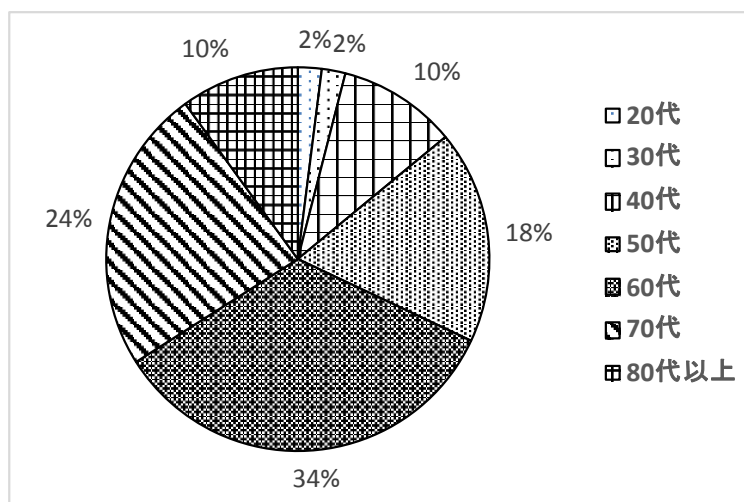
- ・楽しい場所・心地よい場所
- ・参加しがいいある団体
- ・誘い合って参加したくなる団体
- ・空き家
- ・いろいろな居場所
- ・行政との協働

4. 参加者アンケート結果

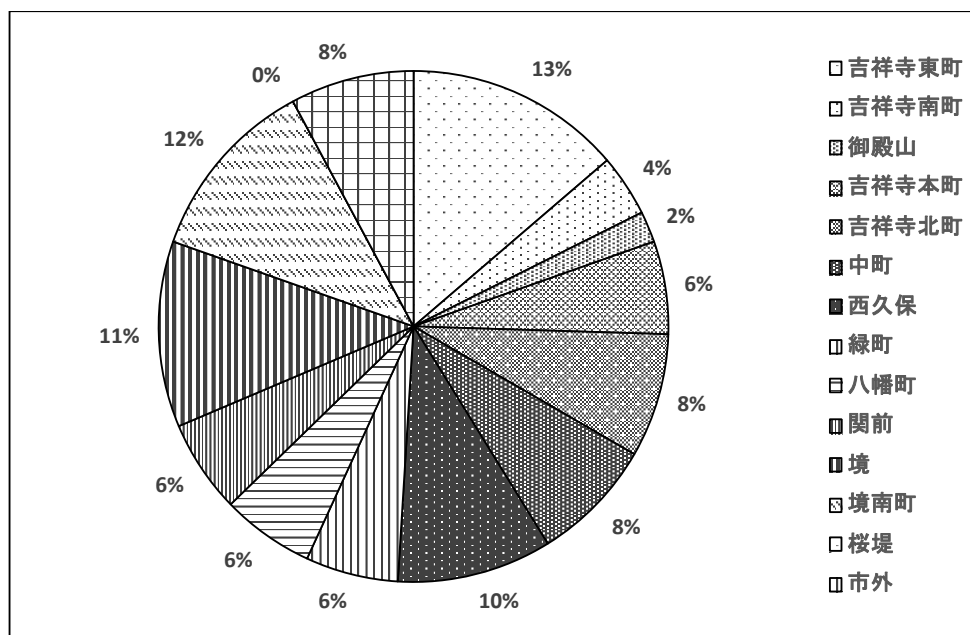
アンケート回答者

51 名

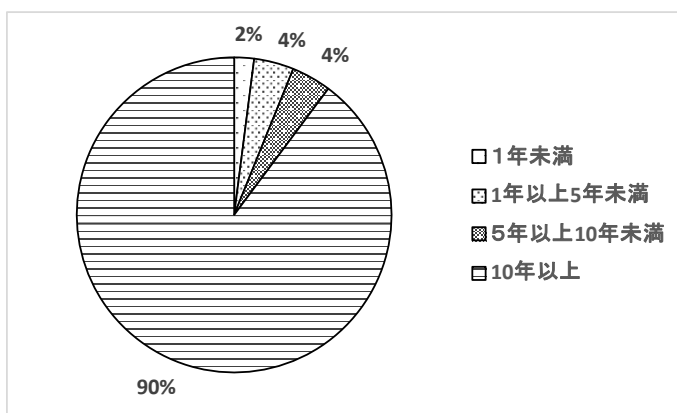
年齢



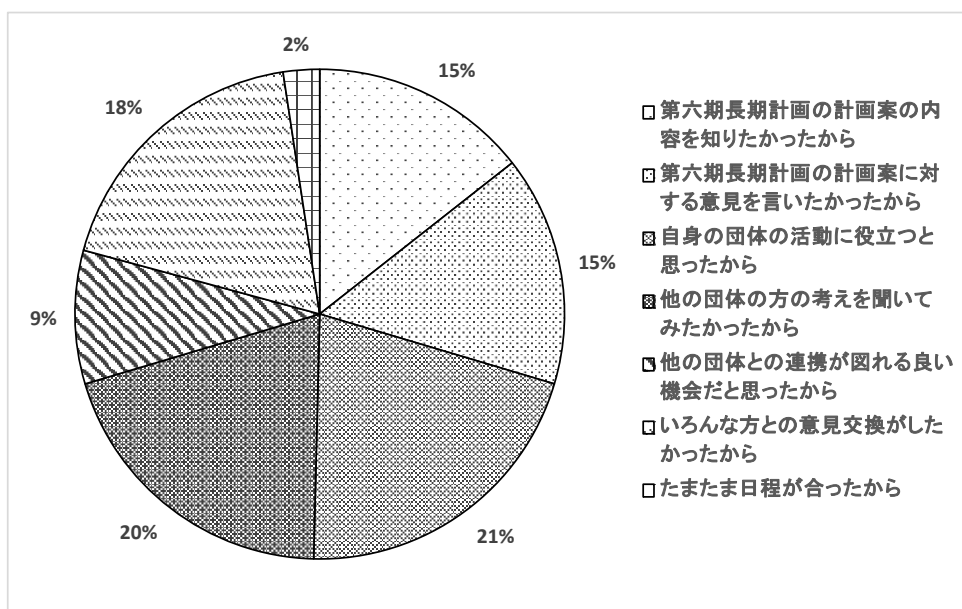
住所



武蔵野市内での居住または活動年数



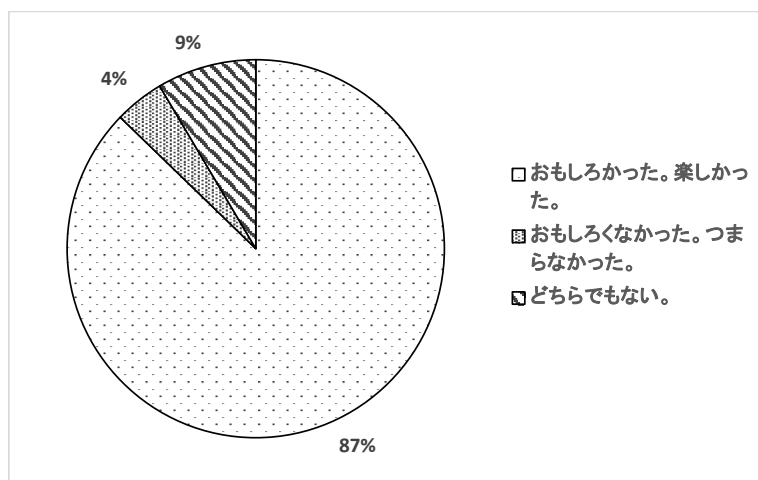
参加理由（いくつでも）



【その他】（自由記載）

- ・地域社協の会長にすすめられたから
- ・家庭にて子育てをしている人たちの支援をもっと考えてほしく、意見を言いたく。
- ・案内がきたので出席すべきと思ったから。

参加された感想



【理由】（自由記載）

よかった点

- ・いろいろな気付きがありました。活発に活動されているのを感じ、元気をもらいました。
- ・通常なかなか関わることのない団体の方達と同じテーマで意見交換をやるのが、とても興味深かったです。
- ・私のグループのテーマは市民活動団体の相互連携でしたが、私たちのグループ自体が違う世代の相互連携だったかと思います。これが大きくなったものが、市民活動団体の相互連携であると実感しました。
- ・日頃の活動分野の異なる方々と、少人数ながら、多くのご意見がきけて、楽しかったです。殊に趣味で楽しみを共有することから入るのがよい、というのが印象的。
- ・いろいろな意見をお聞きできました。
- ・緑についてとても勉強になりました。武蔵野市として緑を大切に考えてほしいと思う市民が多いということを忘れないでください。
- ・知らなかった方々と話し合い、とても連携をとれておもしろかったです。勉強になりました。ありがとうございました。
- ・集まった方が個性的で専門分野をお持ちで、楽しいお話が聞けました。
- ・新しいつながりが子どもに還元できると思ったため
- ・流れがよくわかり、（グループワークについて）様々な各団体から意見が出ました。
- ・付箋のアイデアが良かったです。発言しやすかったです。
- ・色々な意見が聞けて楽しかったです。リラックス出来た雰囲気の中での意見交換で時間を忘れた様に集中できました。
- ・市内で活動している団体、サークルの方々と多くの意見を聞く事が出来て良かったです。

- ・武蔵野市は広いと思いました。まったく知らない団体の方と意見を交換でき、知らないコトばかりだと思いました。ワークショップの時間は適当ですが、託児の子供達が心配です。
- ・色々な方の色々なお話を聴けて面白かったです。
- ・グループワークの大切さを知った。
- ・同じ方向性を持っている方々との話がとても良かった。
- ・グループの中でも個人によりさまざまな意見を持っており、思いもよらない考えを発表する方がいたりで市民一人ひとりのパワーや意識の高さを感じられた。
- ・他の団体との交流が出来て有意義でした。
- ・顔を見知った大人が子どもの育ちに大事、というのが、なるほどと思いました。
- ・地域の様々な団体の方と情報共有ができて良かったと思う。ぜひ、ワークショップの内容を第六期長期計画に反映していただきたい。
- ・参加者皆さん、前向きな意見を出されて、楽しく参考になった。
- ・様々な団体の意見が聞けて楽しかった。
- ・自分の考えを口にすることで整理できたり気づきがあったりしました。・
- ・情報共有できたことは大きな収穫でした。
- ・自分の意見をきっちり伝えた。
- ・行政にお願いをするだけでなく、自分達が出来てやることをやらなければならない事に思った。
- ・初めて参加しました。多種多様な考え方が有りますが、お互いに意見を聞ける良い機会でした。
- ・参加者の皆様の意見が有り、楽しかった。
- ・おもしろかったと言うのではなく、非常に有意義な意見交換の場となった。楽しく和やかな話し合いで、市職員との距離が縮まり、協働の意識が深く強くなった。浸透させていくにはこの様な会が必要だと思いました。
- ・色々な団体の人との意見が聞けて参考になった。
- ・市にこんなに多くの活動団体があることが解ったこと。
- ・メンバーの個別の具体の話が面白かった。
- ・役に立つ意見が多く、参考になる。
- ・各団体の防災に対する考え方が有り、良い話し合いとなりました。
- ・同じグループの方々が各々防災についてご自身の意見をお持ちで、とても勉強になりました。武蔵野市の底力は市民の方にあるのだとしみじみ感じました。

改善点

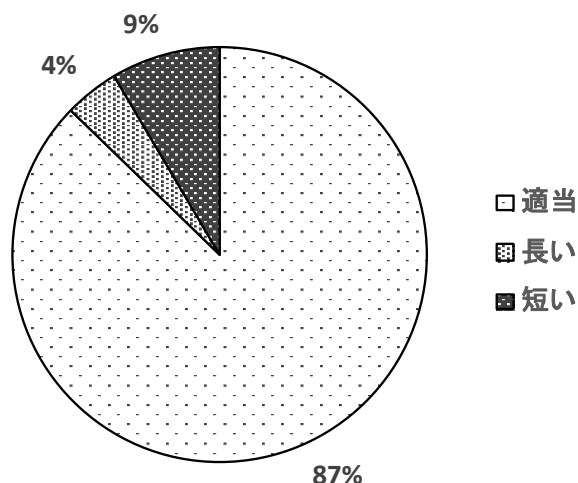
- ・大勢の方々との意見交換はそりゃあ楽しいですよ。でも果たしてそれがきちんとした意見として反映されるのか？は疑問に思っています。まあ、でもこんなものなのでしょうね…。私

達自身も長計をどれだけしっかり読みこんでいるかを考えるとあまり偉そうなことはいえませんし…。

- ・『地域の担い手の発掘・育て方』グループに出席したが、本部のテーマの出し方の意味がよく分からず、かみあわない。理想像の前に現在の担い手のない実情をしっかりふまえ、話し合っこそ、理想が見えるのではないか。実情のとらえ方が市自体甘い。担い手が少なく、活動の存続が切迫している状態なので。
- ・まず現実がどうであるかを話し合った後で理想像を話し合うならよいが、いきなり理想の町と言われても？と思いました。担い手不足の問題はとても大事なのもっとつっこんだ話し合いをしたかった。
- ・このワークショップの目的やゴールがあいまいなままでもありました。この意見が策定委員会にどのように活かされるのかわかりません。（計画案を修正するものでもありませんし）
- ・同じグループの方のお話を聞けましたが、話や議論を深めるのはむずかしい。説明部分は最短に。事前に理解を。進め方のイメージが来てからわかった。事前にもう少しわかりやすい情報発信を。
- ・有意義ではあったが、短時間で結論までもって行くには議論が深まらない。同じメンバーで複数回の会合を持てれば良いと思う。（異なる参加者による会合を何回持っても、議論は深まらない。）
- ・理想像だけでなく、現実問題を取り上げてほしかった。

個人ワーク・グループワークの時間

個人ワーク

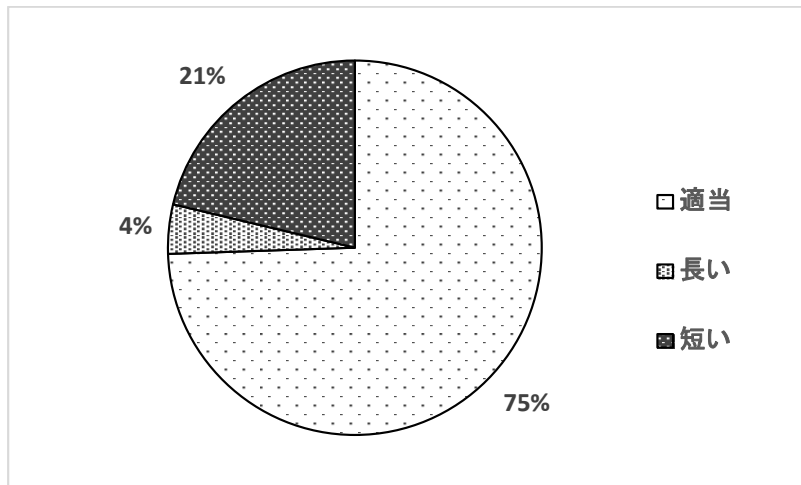


【その他】（自由記載）

- ・全体が長すぎます。その中で何を導き出したいのかが不明確でした。

- ・自分の意見を書くのが難しかった。
- ・時間割、配分、難しい。まとめた議論ができない。気づきがあった。
- ・統制された WS という枠が好みでないのでおつきあいがつらかった。

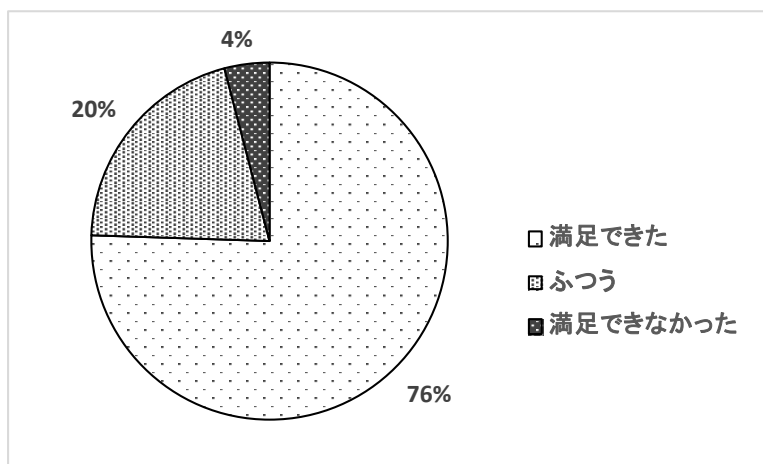
グループワーク



【その他】（自由記載）

- ・長いと思ったが、参加したらちょうどよかった。
- ・色々の考えが有り、良かったです。

市民ファシリテーターへの感想



【満足・不満に感じた点】（自由記載）

よかった点

- ・いろいろな配慮を感じられました。
- ・身近な、同じ立場の方が司会をされていて、感じが良く、話しやすかったです。
- ・市でいろいろ活動されているため、とても市の情報に精通されているため、話がとても楽しく発展しました。ありがとうございました。
- ・参加者が個人的にバラバラに出す意見の中から要点を見つけ、気付かせてくれました。
- ・とてもうまく進行してくださいました。ご自身の意見をとても参考になりました。
- ・いいですよ。
- ・傾聴しつつ、議論を整理していた。
- ・丁寧に進めていただき、ありがとうございました。
- ・優しくていねいに論点をまとめたり、話を進めていただきました。
- ・上手にまとめてもらいました。感じよく。
- ・的確に話題をまとめられていて、とても安心感がありました。
- ・上手に進行して頂いた。
- ・最初にあった緊張感をぬぐい取っていただき、スムーズに話し合い、まとめていただき、助かりました。
- ・上手にまとめて下さいました。
- ・大変よくまとめていただきました。
- ・一生懸命さが感じられ御自身の意見も話されたりで良かったです。
- ・ギロンをうながすのが上手と思いました。
- ・非常に楽しくワークショップに参加できました。
- ・良くまとめていただいたと思いました。
- ・ほど良いリードで良かった。話しやすかった。
- ・自分なりの意見、グループの司会等、大変良くやっていただいた。
- ・難しい役割なので大変であったと思う。
- ・なんとか課題に対する提言ができたこと。
- ・司会たくみだった。敬服。
- ・色々勉強されて、感心しました。
- ・とても丁寧にまとめて下さっていました。

改善点

- ・彼女達よりもっと経験あり、深い考えの方も多かったので、彼女達のリードは？でした。
- ・言い残しが大変多かった。
- ・1人1人の意見をどのようにふくらませればよいか導きが少なかったなので、内容の発展が少なかったかもしれません。グラフィッカーが必要でしょう。

職員の対応（自由記載）

よかった点

- ・以前小学校のあそべえなどでお世話になった市職員と一緒にワークショップができ、また熱心なお話に、私まで心が熱くなりました。ありがとうございました。
- ・節度は有りながら、楽しく皆の意見を引き出してくれました。
- ・よかったです。
- ・市としての立場とご自身の立場と両方から意見を聞かせてもらいました。若い職員の方の素直な感想・実感を庁内でも受けとめて下さい。
- ・控え目にされていて、遠慮なく話せました。
- ・自分がダラダラ発言してしまったことも上手に要約して付せんに書いていただきました。
- ・よくまとめて下さった。
- ・真摯な態度で聞いて下さり、有り難かった。
- ・時間をきちんと区切っていただけて良かったです。
- ・上手にフォローして頂いた。
- ・メンバーの意見をしっかりと受け止めてもらえました。
- ・つかず離れずでした。
- ・とても信頼がおける形で接していただきました。
- ・良かったです。
- ・柔らかなまなざしで外側から私たちをサポートしているのがとても好ましく感じました。
- ・色々な質問に丁寧に答えていただきました。
- ・サポートに徹する形で良かったです。
- ・適度な介入で良かった。
- ・適切
- ・good job !!
- ・good !!
- ・良かった。
- ・誠意を持って対応して頂いた。
- ・良かった。
- ・適切なアドバイスと傾聴に好感がもてた。よかった。
- ・良い対応であった。
- ・謙虚で柔軟でした。
- ・良好

改善点

- ・少し遠慮されている感じもうけたので、もう少し積極的にお話されてもよかったのかなと思いました。
- ・積極的に出る立場ではないので難しかったのでは。
- ・表情が嫌な方もいたのが残念に思いました。
- ・何を話し合うのかわからなかった。計画案について意見を言うのかと思った。
- ・職員も自己紹介から最後まで一緒に参加した方が面白かったと思います。市職員も自由に活発に個人的意見を発言することは成長につながります。
- ・市の悪口を言いましたが、すみませんでした。
- ・もう少し発言があっても良かったと思いました。
- ・職員の方全てを理解して出席は困難であり、専門知識がその都度必要で有り、対応が難で有ったと見受けられる。
- ・どこまで目的を持ち参加されているのか疑問を感じる部分もありますが…。ご自分の意見や思いをもっと伝えても良いのではないのでしょうか？

ワークショップの感想（自由記載）

よかった点・気づき

- ・立場は違っても、自分のやっている切り口でみんなが同じ様な事を考えているのがわかってよかったです。個人的には頭の中だけで考えているだけじゃだめで、発信していきたいと思いました。
- ・このワークショップを機に、色々な方と話しができ、繋がれたことに感謝しております。ありがとうございました。
- ・他の方のお話を楽しくきき、気付くことが多かった。年のせいか、時間を区切られて考えをしぼり出すのは苦労でしたが、それも楽しみ。報告を出して下さるそうで安心しました。役に立つことはあったのかしらと反省。
- ・市民一人一人が社会を作るという言葉が印象的でした。
- ・いろいろな活動の方と知り合えてよかった。
- ・「若い人にまかせる」一印象に残った。でも若い人が来てくれなくては。「ニーズの把握」大切なこと。
- ・4時間…思ったより長くなかったです。

- ・情報が欲しくて参加させて頂きました。今後も、積極的に武蔵野市の情報に耳を傾けて参加していきたいと思います。有意義な時間をありがとうございました。
- ・色々な組織（団体・サークル）の活動を知る事が出来て本当に良かった。この様な市民力を地域活性につなげていけるようになることを希望します。
- ・団体で行動できることもありますが、個人でのこれから特技をいかすことができるかと思いました。ポストイットでのディスカッションから輪が広がっていき、とても良い意見交換ができました。
- ・普段お会い出来ない方々と意見交換が出来、大変有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・つながりが大事と気づきました。自分達のテーマ以外でもつながりというキーワードがでてましたので、全体としてこれが大事なんだろうと思います。
- ・長時間だと思って来てみたが、実際はあっという間に時間が過ぎた。会の進行のしかたがよかったと思う。
- ・分かりやすかったと思います。
- ・ワークショップで出た諸々の考え方を反映することにどここの角度から切り込むのが答えが必要です。
- ・長時間の構成内容が上手に時間配分され工夫されていると感じました。メインファシリテータの説明も分かりやすく話し合いの導入部分も理解しやすかった。参加してとても良かった。時間を忘れてしまいました。
- ・色々の方との交流ができ有効な時間になりました。
- ・防災への取組み、防災コストの判断等、大変役に立った。
- ・市民の想いを聞いて下さる大切な機会であると思いました。

改善点・今後への期待

- ・途中、流れている音楽が耳ざわりでした。参加の人数の多さに驚きました。障害者が参加できるような WS の実施をお願いします。
- ・市民力の高さ、ムダにしないで下さい。リーダーシップをとり、武蔵野らしい六長になることを期待します。
- ・グループで好きなような話をして盛り上がりましたが、どう長計に生かされるのかわかりません。でも参加者がとても気づきを持てたことが成果なのかなと思いました。
- ・色々な意見が伺えたことはとても有意でした。しかし、計画案についてのダイレクトな設定ではなかったような気がします。主旨として話された計画案の周知にはなっているかとは思いますが、参加した団体・市民の意見が表明できたかという疑問が残ります。“ワークショップ”という形式・手法だけでないので、その1つと考えればよいのでしょうか…。
- ・発掘・育て方の話し合いをもっと深めたかった。

- ・具体的な実情の話をもっと聞きたかった。
- ・今日はあまり参考にならなかった。進行はしろうと？
- ・情報はあふれていて、それを収集するのはとても難しいと思いました。知らない情報が多すぎると思いました。
- ・いかに第六期長期計画に反映していくのか見守りたい。
- ・計画案を基にした話し合いではなかった（説明はあったが…）ので、これが全体の策定スケジュールの中でどのような意味を持つのかわかりませんでした。策定の初期のワークショップと何が違うのでしょうか？「理想の姿」「そのために必要な方・出来ること」「課題」これは最初にやって計画の基にするものではないのでしょうか？この計画は今後10年間の大切なものです。（これに記載されていないものはできないと言ってもよい）文章はとてもよいところが多い計画だと思いますが、パブリックコメントのワークショップ版？だったのでしょうか？
- ・ワークショップでの意見が6長の策定委員会に伝わり、どう考えられたかを知りたい。再度のメンバーで話がしたい。
- ・次回の企画では課題解決のための具体策、又は戦略の検討をお願いします。
- ・何を目的に参加したか、一人一人の方の満足はどうだったか？事前のお知らせ、準備？ 討論を深める、組織運営、課題の共有
- ・テーマが難しかった。
- ・目標（第六期）は、町の目的をハッキリ出す、（自分・団体が中心）と思います。
- ・話が盛り上がると休憩が入り、話が切れてしまう。何かプツンプツと切れてしまい、まとまりがない。参加して何かおみやげになるものを持ち帰りたかったが、時間をかけて少しもったいない。但しグループの中で参考になる話があった。
- ・地域団体との話し合いは常に武蔵野市は行っているが、全てを聞いて実行は困難で有るが、一つでも二つでも実行を望みます。
- ・今回でた沢山の意見は、しっかりと形になる、そのための土台となるのでしょうか？
- ・現実とのギャップや温度差がありすぎるように思いました。市民に現実や目標が伝わっていますか？

5. 市民ファシリテーターについて

市民ファシリテーターの効果

ワークショップの全体進行と各グループでの対話のサポートは、13名の市民ファシリテーターが務めました。市民ファシリテーターは、「地域をつなぐコーディネート力」を要請する武蔵野市の事業「コミュニティ未来塾むさしの」の修了生です。

今回の参加者は市民活動を実践されている経験豊かな方々が多かったですが、過去2回の無作為抽出市民ワークショップでの経験も踏まえ、開催に向けて意見交換や情報共有など準備を重ね、市民目線のファシリテーションのスキルアップを行いました。

団体ごとに固有の考えを持つステークホルダー（利害関係者、何らかの影響を与える人や団体）どうして地域協働を実践することには様々な壁が存在します。その壁を乗り越えて成果を出すためには、市民ファシリテーターのような対話を促進するハブのような役割が欠かせません。今後も多くの場面での活躍が期待されます。

市民ファシリテーターのアンケート結果

ファシリテーターとして参加した感想

- ・市で活躍されている多様な方々が集う場に一員として参加できたこと、そして、その場で何かを生み出すご協力ができたことがうれしかったです。また、個人的にはファシリテーターとしてのスキル・経験を積むことができました。
- ・地域の重鎮の多いWSを未来塾で学んだ市民ファシリテーターが仕切ることへの反発やダメ出しが気になるなと思ったが、ファシリテーターのスキルも上がり、時間内に場を一定の方向へ持っていくことができたのはものすごい成果だと思う。たぶん多くの参加者がファシリテーターのいる会議というものになれていなかったと思うので、これを機に地域活動のいろんな場で、ファシリテーションが良い効果を生むことを感じてもらえたらよい。
- ・市の団体の方々が対象という事で、以前より難易度の高いファシリテーションでしたが、担当テーマについて有意義なワークショップが持てました。
- ・ファシリテーターは別の仕事で経験していますが、今回は、市民対象という初体験でしたので、よい経験をさせていただきました。市の長期計画に関するWSなので、自分なりに、実のある内容にしなければいけない…という責任感・使命感をもって臨みました。
- ・前回と違い、団体同士のワークショップは数日前から緊張感がありましたが、温和な参加者に恵まれ終始穏やかな話し合いの場となり、無事終了して安心しました。自分にその場を楽しめるくらいの余裕が生まれたらと思います。大変いい経験をさせて頂き、こうした機会を頂けたことに感謝しています。

- ・2度目の参加でしたが、事前にいただいた地域団体の名簿を見て知らない人ばかりなのでどうなるかと心配しました。日が近づくにつれ「やる」と言ったことを後悔したり…当日は、自己紹介で少し落ち着き、その後はファシリテーターとして場を仕切るというよりは、場の雰囲気大切に「一緒に考えましょう～」という感じで、私も地域団体の代表の一人としてワークショップに参加して皆さんとお話するという姿勢で臨みました。
- ・それぞれ違う団体が集まりましたが、皆さんがお互いの意見に耳を傾け、「そうなんだ～」、「こんなのはどう?」、「そりゃ大変だ!」と、私はその中で、〇〇さんの団体ではどうですか? ということありますか? という感じで話を無理に纏めず、自然に回せるように努めました。こういう機会が数多く設けられ、互いの団体を知り、それを活かしてお互いが活動できるようになっていくことが大切だと改めて感じました。
- ・他の団体と交流する機会は殆どなかったので、とても有意義な時間な時間を持ってました。ありがとうございました。
- ・他の環境団体との連携のきっかけになり、所属する団体としても有益でした。
- ・参加者がとても協力的だったため、特段困ることもなく進められました。
- ・ファシリテーターとしての仕切りは流れを作るだけで特に何もしなくても大丈夫だった。
 - ・色々な意見を持った人たちの生の声を聞くことができてよかった。
- ・始まったばかりは、余りにも熱く一方的に話されてしまうと黙って聞いているしかないか…の雰囲気になって他の方が自由に発言しにくくなってしまったことがファシリテーターとして力不足だったと思います。皆さんリーダーの方のご出席だったので、愚痴のような感じで悩みをいっぱい言って共感出来たら良かったのに、不完全燃焼で終わらせてしまいました。
- ・市内には多くの団体があり、それぞれの理念の下で活動をしており、これらの方々のベクトルを一定方向にまとめていくのは大変な作業であると想像する。ファシリの役割は、意見や考えを引き出すだけで、余り責任がないナ!と感じた。
- ・強い意見を持っている人達揃いの中でワークショップを進行していくのは正直厳しかったです。しかし、良い経験を積ませていただきました。

ワークショップの企画・当日の運営について

<良かった点>

- ・メンバーのみなさんと事前に流れについて検討できたこと
- ・2回目の打ち合わせで、ファシリテーターが参加者になって場をシミュレーションしてみたことがとてもよかった。あれがなかったら場のイメージがまちまちだったと思う。
- ・ポストイットで拡散することと収束する時間(自分たちの中に共通認識として、いろいろな考えを落とし込む時間)をもったことが、少しでも不完全燃焼を打破し、充実感を感じていただけたのではないだろうか。

- ・事前に入念な打ち合わせを設定していただいたおかげで、ワークショップのイメージを掴むことができ、ファシリテーター同士の共通認識の向上も図ることができました。
- ・ひとワーク毎に休憩が入って、息抜き出来るので助かりました。また、休憩の時のお喋りで本音や悩みがポロっと出ていました。
- ・事前打ち合わせの 6/12 に市側とファシリ側と顔合わせでき、その後に、予行練習して、時程などを修正できた点。
- ・WSの趣旨などが明確になり、ファシリ側で進め方などを共通理解できた点。
- ・時間配分が明確に決められていた点。
- ・奥野さんが代表ファシリテーターとして、当日の進行などを調整することが決まっていた点。
- ・市民がファシリテーターを行うという仕組みは良いと思います。意見や批判を直接受けずに進捗に専念できるのと、参加者もファシリテーターとの壁を感じずに話してもらうことができるからです。
- ・他団体と話し合う場は貴重な機会であり、それぞれが持つ課題を知り、自分の視野を広げることができたのは良かったです。
- ・武蔵野市で市民活動をしている方同士が交流したり、市の方々と意見交換できる機会はなかなかないので、大変貴重な機会だったと思います。
- ・ワークショップがうまく進行するよう、ファシリテーターが市民活動をする者の一人として、全体・テーブルでコーディネートするのも大変よかったと思います。
- ・最初の打ち合わせを個別に設定して頂き、丁寧にご説明頂いたことが、ファシリテーターとしてはじめて参加することへの不安軽減になりました。休日や夜間、最寄りの公共施設を事前打ち合わせの選択肢に入れて頂き、こんなに至れり尽くせりだと、仕事をしている者でも参加しやすかったと思いますし、ここまでして頂いて参加しない訳にはいかないと思いました。
- ・市の方々とファシリテーターが事前打ち合わせから一緒につくりあげたのは素晴らしいかっただと思いました。
- ・実際にファシリテーターがワークショップを事前に体験したこと。
- ・広く市民から直接意見を出してもらう形をとったこと。1 テーマに対して、いかに多くの団体が関わっている事や、問題点・課題等の共有ができた、行政に対しより深い興味を持ってもらうことが、WS 実施の価値であると感じる。
- ・市民ファシリテーターの意見収集機会を設けて頂いたコト。
- ・事前打合せの場で事前にファシリテーターとして議論できる場を頂いた為、内容面においては既存の枠組みの中ではよくできた内容になったと思います。
- ・顔を合わせて話すことで、色々と改善案件が出た。
- ・模造紙に印刷済みだったところ、時計など必要なものをそろえて下さり、助かりました。

- ・全体ファシリテーターの奥野さんが子育てママさんであること、大阪出身の働くママであることなど、地域の新しい担い手として、地域活動の長い方たちにも、新鮮な印象を与えられたのではないかと。テーマがやや漠然としていたので、もう少し絞って、希望者を集める方が議論が盛り上がったのではないかと。各テーブル人数のわりに参加者のスタンス、温度差にばらつきがあった。
- ・お菓子やお茶を取りに行くことで動ける。席を外せる。
- ・市の担当者が、各グループに配置された点が、一番良かったです。
- ・休憩時間設定とお茶菓子用意は、参加者にとってリラックスタイムとなりました。
- ・市職員の方のサポートが適切に行われていて、助かりました。他の班のファシリテーターも、同じ意見をお持ちだったようです。
- ・1人1分のグループワークは無理がありましたが、終了時刻が予め決まっているので自分で調整できる環境にあり、やりやすかったです。
- ・司会や全体ファシリテーターの方々が明るく進行してくださったので、和やかな雰囲気でお話合いや交流ができ、来てよかったと満足して帰られた方が多かったのではというのが一番よかったのではないのでしょうか。
- ・市の担当者さんとファシリテーターの連携。
- ・総合司会の方の進行は非常によく、全体を和ませていた。
- ・メインMC役が後半に近づき、声のトーンやテーブルへの配慮など進行がしやすく感じました。
- ・総合ファシリ、事務局や市の職員、他のファシリターの協調的な姿勢があった為、場全体の雰囲気が非常に良く進んだと思います。
- ・自己紹介の後の休憩。ここで雑談することで参加者同士のコミュニケーションを図ることができた。

<改善点>

- ・ワークショップの主旨（話を聞き合う）をわかりやすく、参加者の方に伝えるべきだったと反省しています。
- ・計画案に対して、前向きに他の団体と意見を出し合い、新しい出会いを楽しむといった具合の広報の仕方も必要かもしれない。
- ・代表でない方に参加してもらい意見も聞いてみたいです。
- ・当初にいただいた資料からはWSの流れなどが読み取れず、どう進めていくか、迷いました。
- ・付箋の色に意味を持たせるとよいのでは。※〇〇は□色に記入する…など。
- ・ステーキホルダーを挙げるステップについて、班内でも唐突感や戸惑いが見られました。その流れの意図や目的を、事前に我々で共有できれば、混乱は緩和できたかと思いました。

- ・他のファシリテーターと事前打ち合わせができなかったことが不安でした。
- ・他のテーマの参加者と意見交換をする時間がもっと欲しかったです。
- ・時間：時間が短すぎるなあ、小間切れすぎたかなあと感じました。特定の方にかたよることなく皆さんにお話し頂くために、まず1人何分かずつ話して頂くのはとてもよい方法だと思います。ただ、グループワーク①②③・・・⑥それぞれの時間が15分程度というのは、拡散するにも浅くも深くもいかず。収束するなら皆さんの意見を聞きながらというのは難しく、ある程度強引?にまとていくしかなかったなあと感じています。参加者の方からもまた同じような課題ねといって感想をいただきました。①、②+②、④+⑤+⑥の3つ程度にしてそれぞれもう少し時間をとる方が話しやすかったのかなあと思いました。
- ・ワークショップの課題の設定：テーブルテーマが「地域の相互連携」であるにもかかわらず、ワークショップの課題が「理想の地域像・・・」と一律だったので、「楽しい地域」「あいさつができる地域」などに流れてしまいました。「地域の相互連携をするための理想の姿」などテーブル毎に調整した方がテーブルテーマにそった話ができただけではと残念に思いました。
- ・タイムテーブル・・・盛りだくさん過ぎてもう少し時間の余裕が欲しい。話が良い方向で盛り上がってきても、時間が無くなり話をそこでやめることになる。テーマの違う人が同じ部屋で同じ流れでやることに少し無理を感じた。最後の模造紙が一緒だったため、参加者の人が混同してしまって付箋を書いていたので、別にしたほうが良かった。
- ・市民ファシリテーター同士は知っている方と全く知らない方が混在していて、最後まで会話することもなく過ごした。何度か紹介や交流の機会を設けて頂きたかった。
- ・参加者が高齢の方が多かった為、本来の目的である横連携を図るのが難しいと感じた為、できれば、比較的若い世代（現役世代）を中心に参加者を募れるとより横連携が活性化すると思う。
- ・本ワークショップの本来の目的とは異なるのかもしれないが、現状、あるべき姿、各施策等、もう少し具体的、掘り下げて議論し、提案まで考えられると良かったと思います。
- ・人数が多いので、ファシリテーターの近況報告だけで時間がかかる。本題を先にして、近況報告は時間については時間に余裕がある人だけにするか、最初の何分かは近況報告の時間に使う予定ですとするか。
- ・テーマごとの説明の時に隣のテーブルの説明が聞こえ、聞きにくかった方がいたように感じました。
- ・同テーマの方々の意見をさらに共有したりもんだりできれば、議論が深まると思う。テーブルごとでは、どうしても浅く広くみたいな議論になりがち。
- ・なぜ、このテーマ設定にいたったのか不明であるとの意見が数名の方からありました。これについて、もう少し詳しい説明がワーク開始前にある方が良かったと思います。

- ・「理想の現実の為にやりたいこと」と「実現に向けて必要なこと・課題」を1枚の紙に書いてあったので同時に考えがちでした。2枚に分けた方がワークがスムーズに進んだと思います。
- ・「参加者が発表する」ことを強く伝えてもよかったのでは。※誰もいなければファシリテーターが発表してもよい・とあり、グループ内でまとまらず、ファシリテーターが発表しました（してしまいました）。
- ・配布資料の紹介の段取りや、視覚障害者への配慮は、事前に少し時間をかければ改善できます。
- ・市職員配置について。テーブルの担当職員が全体調整役と、グループサポート役を兼ねるのは大変だったと思います。開始前に、担当職員と事前打ち合わせをとる時間が十分にとれませんでした。もう1名増やし、担当職員にどちらかに専念いただいて貰えればと思いました。（結果的にグループサポート役として大変助けていただきましたが）
- ・テーマごとに分かれてのワークショップでしたが、他のテーマの方が入ってもコラボ？できる新たな発想が生まれるのではないかと思います。
- ・とても細かい話で恐縮ですが。名札がほとんど見えませんでした、ひもをもう少し短くするか、胸にシールを貼る方がいいのかなぁと思いました。交流会もあったので、団体名も書いていただいたらもっとよかったのかなと感じました。（テーブルではポストイットにお名前を書き、机に貼るよう工夫してみました。）
- ・座席が一つ足りなかった。また、違うテーマの資料が誤って配布されていたので、事前準備は余裕をもって行ないたい。準備する人、それを確認する人をおいてはどうか・・・
- ・①ありたい姿②実現のためやりたいこと③実現に向けての課題 の順に意見集約していったが、第6長計向けの意見集約の点からいうと、②は不自然。
- ・参加者および市民ファシリテーターのワールドカフェなどの時間もあつたらもう少し知り会える方々の数が多かったかなとも思います。
- ・改善点で触れた内容を実現するならば、半日では時間的に難しく、複数回にわたって実施するのもありかと思いました。
- ・参加者の中に、自分の意見を言う場だと思ってきた。という方が数名いた。
- ・他人の意見を聞くことによる新しい気付きによる、もっと前面に出して参加者を募集したほうが良いと思います。

ワークショップの感想

- ・全体ファシリテーターとしての大役をお任せいただきましたこと、本当に感謝しております。やりきった感はあるものの、反省点も多く、反省点は今後活かしていきたいと思います。ということで、また、どこかの場でリベンジをさせて頂ければ嬉しいです（笑）。

- ・市の方々と色々な意見交換ができたことにも感謝しております。地域活動を始めたきっかけは、友人も親族もない中での武蔵野市の子育てが軌道にのったのは、市の子育て施策によるものであり、保育園にも通わせることができた、そんな市政への恩返しをしたい、その気持ちでした。その恩返しを、また、少しできたかな、と感じております。本当にありがとうございました。
- ・無作為抽出と違って、今回は日頃から地域活動をされて、市政にも関心が高い方ばかりなので、テーマごとにもう少し議論をできるような深掘りできると、今後の計画案に良い効果が出せたのかなと思います。ただ、日ごろこれだけの団体さんが一堂に顔をそろえることもないので、横を知る良い機会になったと思うし、共通の場をもつことによって、今後連携できるようなよい出会いの場やきっかけを作れたと思います。
- ・普段より思うこととして、このような行政側 WS に私達市民の力を活用されるメリットとして、多くのファシリテーターは各々の地域や分野において活発な活動をされていらっしゃるため、こういった経験を持つことにより、その周囲の方々に対する「市政に興味を持ていただくための媒介者・インフルエンサー」の役割が期待できる、というのがあると思います。また「行政に愚痴や文句のある方からも建設的な意見を引き出しやすい」ことがあると思います。今回は特に 2 つ目の点で効果的に作用したのではないかと感じました。
- ・もしかしたら、どうしてこんな初歩的なワークをやられているのかな？って思われているのかな？って思いました。楽しい方向に持っていけない自分にも反省です。
- ・「地域に担い手の発掘・育成」がテーマでしたが、発言トーンが落ちたところの方が気になりました。
- ・長年の活動で仲良しグループが出来上がり、なんとなく席もいつも決まっている。
- ・若い人が新しいことをやろうとしても、上の方が理解出来なく、結果やらせてもらえない。わからなくても良いから、一任して欲しい。
- ・長期計画を市民に浸透させる大きな機会と場になりました。
- ・テーマごとにグループを編成したので、ある程度は、そのテーマに沿って話し合いましたが、途中、何回も別の方向（市職員人事・配置や、過去の市長の施策、自身の思いなど）に議論が進み、ファシリテーター自身としては、与えられたテーマに沿った WS に十分に進めませんでした。（もっとも、参加者は自由に発言していたので、満足度は高かったようです）
- ・個人的には、奥野さんのファシリテーションの進め方を学べたり、また市民には多様な方がいるということを実体験できて、大変有意義な経験が積めたと思っています。また、ワーク最後の感想共有の時間で、班内から挙がった意見を共有したいと思います。
- ・日頃会えない方とお話しできた。
- ・所属する「福祉の会」の会報に掲載するので、報告書を発行していただくとうれしい。
- ・短時間で深い意見をまとめるのは困難。同じメンバーでもう一度実施しないと議論が深まらない。

- ・今回の結果を、計画策定委員にどう伝えて、そしてどう返答がくるのかを知りたい。
- ・策定委員にどのように伝わってどう帰ってくるのか、それを知らないとワークショップが終わったとは言えない。
- ・意見の違いを落ち着いて聞くことができた。
- ・行政が、今日挙げた意見をどうやって施策に取り入れていくか、その過程を知りたい。
- ・子育て世代への支援ばかりを考えてましたが、参加者の話から保育現場で働く人へのサポートに力を入れないと事務などの業務に追われ、保育すべき子供への対応に余裕がない、との意見を聞きました。子育てしてる側の一方的な問題点だけでなく、預け先の現場で働く方の意見は新鮮でした。
- ・他の市民活動団体の方のお話をお聞きすることができ、市の方々のご努力も知ることができ、大変貴重な機会となりました。今後の活動に役立てていきたいと思います。
- ・お疲れ様でした。終わってしまいちょっと寂しいかな。
- ・お世話になりました。ありがとうございました。
- ・各テーマの全体共有が中途半端で、参加者が他のテーマについて「気づき」を得られたか疑問。テーマにより、グループが組めなかったものがあったのが残念。どのような問題点がそこに存在していたのか知りたかった。
- ・私自身が長期計画に関心をもつキッカケになり、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・みなさま、大変お疲れ様でした。市の職員の方々や準備に係わった全ての方、参加者の想い、負担等を考えると、是非、この計画が絵に描いた餅にならないように市民も一体となって実行に移していく必要があると強く思いました。
- ・子育てについて、障がい児について当事者と施設運営の両方から話を聞くことができてよかった。市に対する要望よりも、すでに色々の良いものもあるので、当事者が積極的に外に出てくる機会づくりと、子育てに対する周囲（特に他人）の理解が最も大切だという意見が多かった。

市民参加を広めるための手法など、今後についてのアドバイスや考え

- ・無作為抽出ワークショップは有効ではないかと感じました。また、各団体での活動を市民参加の第一歩と絡ませられるようななんらかの仕組みがあればいいのかな、と感じました。具体的なものは浮かばないのでありますが・・・。
- ・市民の市政参加を広めるためには、今回のような長期計画の呼びかけや無作為抽出WSはすごく有効だったと思います。個別にはがきや封書などダイレクトメッセージがやはり、参加への効果が高いので、今後は若い世代や働く世代にはSNSやWEBでの発信などを増やし、情報のとりやすさ、また会議報告などの見せ方なども考えられるとよいと思います。

- ・今回のWSには高齢者の参加が多い印象を受けました。その結果、得られた発表には、あまり新鮮さを感じませんでした。20代も含めて、ある程度、参加者の年代を広げること
も視野にいったWSを企画されるのも必要と感じました。
- ・多くの市職員の方が、市民活動の現場を自身の目で見て、自身の体で体験していくことが
スタートかなと思います。
- ・今回の参加者がシニア世代が多かったのが気になります。今後10年計画を検討するにはも
っと若い方の参加を増やすためにも学校での告知が適しているかと思います。学校からの
配布物は全学年の親御さんの手元に届くので市への要望をアンケート調査しやすいかと思
います。
- ・教育・子育て・福祉・居場所づくり・・・などテーマ毎の横の連携、コミセン・福祉の会・
子育てサークルなど同じような市民団体の横の連携（代表者会議だけでなくスタッフレベ
ルも！）、テーマ・団体をこえた横の連携・・・など、いろいろな枠で意見交換・協力
連携ができるような機会を設けて頂けたら、それぞれの団体だけでは解決できないような
アイデアの交換や連携ができてありがたいと思います。
- ・ボランティア活動をしていますと、何でも市の責任だと問題を投げる方もおり、それは違
うんじゃないか、一担当者に過ぎない市の職員の方が気の毒だと思うようなシーンにも
時々出会います。逆に、市民に丸投げ過ぎるのではと思いたくなることもあります。今回
のように、市と市民とが膝を突き合わせて話し合い。困っていることを解決したり、より
よい地域にできるようアイデアを出し合えていったらいいなと感じています。その際、今
回のように、市民活動をしているファシリテーターと一緒に話を進めていくのは素
晴らしい方法の1つだと感じました。まだまだ経験を積まないとお役には立てませんが、
機会があれば、そうしたお手伝いもしていけたら幸いです。
- ・多くの市民が関心を持つ為の工夫はとても難しいですね。私も知りたいです。
- ・市報やチラシ、HP、SNS(ツイッター・FB)なども全ての人に手が届くわけではなく・・・口
コミで広げていくのもとても有効だと思いますが限りがある。また、受け手の誰もが関心
を持つとは限りません。とにかくたくさん、出来るだけ目に触れるような機会を多く作る
ことが大切だと思います。
- ・今回の様な、かなり専門化したテーマであっても、中高生を対象としたWSの実施が「武
蔵野市ルール」の理解および多くの民間団体が自主活動を行っている事、そして市職員も
市民に向けて仕事をしているので、皆さんも！いう事が伝えられれば明るく・希望の持て
る武蔵野市建設が持続的にできるようになる奈ではないかと考えます。
- ・動画で計画策定過程を配信するなどすると興味をもてるのではないのでしょうか。
- ・やはり携帯アプリを作るのが早いと思う。自分の興味がある分野について、整理された情
報を受け取ることができれば、情報が目に入る。情報量が多すぎる市報だと、なかなか見
てもらおうのが難しい。

6. 参考資料

案内通知

平成 31 年 4 月 19 日

団 体 代 表 者 各 位

武蔵野市総合政策部企画調整課

武蔵野市第六期長期計画策定に向けた

地域ワークショップの開催について（ご案内）

陽春の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本市では、長期計画策定委員会を中心に「武蔵野市第六期長期計画」の策定をしています。現在は、2 月から 3 月にかけて行われた各種意見交換会やパブリックコメントによる意見を踏まえたうえで、計画案の作成を進めております。

計画案は 6 月 15 日号の市報特集号で公表する予定です。日ごろ市の施策・事業にご参画いただいている団体の皆さまから、計画案に対しての率直なご意見や計画の実効性・実現性についてのご意見をお伺いし、以下のとおり「地域ワークショップ」を開催しますので、ご案内申し上げます。

- 日 時** 6 月 23 日（日）午後 1 時～午後 5 時（予定）
- 会 場** 武蔵野市役所 西棟 8 階 811 会議室
- 定 員** 60 名（超えた場合は抽選）
- 内 容** 第六期長期計画の計画案について、5～6 人で 1 グループとして、皆さまで意見交換し、意見をまとめて、発表していただきます。計画案への率直なご意見や、計画の実効性・実現性についてグループワークを通じてディスカッションしていただきます。
- 市民活動をされている個人のご意見をいただく場でもあり、対話を通じて話し合う場です。
- ※策定委員会との意見交換会（圏域別）は別途行われます。**
- （市報 6 月 15 日号で案内予定）
- お申込み** 各団体 1 名まで
- ※別紙申込書にご記入のうえ、同封の返信用封筒により返送、FAX またはメールにてお申込みください。
- ※申込みが 60 名を超えた場合は、抽選により参加者を決定いたしますが、いずれの場合もお申込みいただいた皆さまに結果をご連絡します。
- ※若手の方からベテランの方まで大歓迎です。

申
込
期
限

5 月 17 日（金）必着

みんなと一緒に考えることが好きな方
他の人の話を聞くのが好きな方
市民団体同士の交流を深めたい方 など
ぜひお申込みください！！

問い合わせ

第六期長期計画策定委員会事務局（武蔵野市総合政策部企画調整課）TEL：0422-60-1801
〒180-8777 武蔵野市緑町 2-2-28 Mail：SEC-KIKAKU@city.musashino.lg.jp

※参考 第六期長期計画策定委員会 ホームページ
http://www.city.musashino.lg.jp/shisei_joho/sesaku_keikaku/kihonkoso_chokikeikaku/1019180/1019768/index.html



参加申込書

申込書

私は、地域ワークショップへの参加を申し込みいたします。

_____月_____日

- 1 所属団体名 _____
- 2 ふりがな
お名前 _____
- 3 ご住所（町名までご記載ください。例：吉祥寺東町、西久保、境、市外など）

- 4 ご年齢（6月1日現在） _____ 歳
- 5 電話番号（日中連絡のつく番号） _____
- 6 当日は、グループごとに以下のテーマの中の1つについて、話し合っていたく予定です。
話し合いたいテーマの番号を○で囲んでください（複数選択可）。

【話し合いたいテーマ】

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1 まちの魅力向上・発信 | 6 地域の担い手の発掘・育成 |
| 2 公共施設再構築の住民合意のプロセス | 7 地域の防災・安全への取り組み |
| 3 多様性理解の促進（性別、国籍、障害の有無など） | 8 緑・環境を守る取り組み |
| 4 市民活動団体の相互連携 | 9 市民とつながる情報発信 |
| 5 子ども・子育て世代への支援 | |

※1 グループごとの話し合いのテーマは皆さまの希望数に応じて設定いたします。ご希望のテーマと異なる場合があることを予めご了承ください。

※2 設定したテーマは、参加決定通知でお知らせいたします。

- 7 託児サービスを利用しますか。

①はい（お子さまの ふりがな お名前 _____ 年齢 _____ 歳 _____ カ月 性別 男・女）

②いいえ

- ※ 申込書に記載された内容については、地域ワークショップの実施目的以外には使用いたしません。
- ※ メールでの返送もお受けしております。上記必要事項（1～7）を下記宛先まで送信ください。
申込書データ（Word2010）をご希望の場合、その旨をメールにてお知らせください。
- ※ なお、メールの場合は件名に「地域ワークショップ」と記載いただくと助かります。

送信先
武蔵野市 総合政策部 企画調整課 宛
FAX 0422-51-5638
E メール sec-kikaku@city.musashino.lg.jp

話し合いの方法

★本日は地域ワークショップにご参加いただきありがとうございます★

・名札にお名前をご記入ください（本名でも、ニックネームでも構いません）。

◆本日の流れ

13:00 ～13:45	○あいさつ・事務連絡 ○ワークショップの説明 ○自己紹介
13:45 ～13:55	○休憩 東棟にもお手洗いがございます。
13:55 ～15:15	○グループワーク ・理想の地域像・ありたい姿 ・理想の地域像・ありたい姿の「登場人物（団体）とは？」
15:15 ～15:30	○休憩
15:30 ～16:50	○グループワーク ・私たちがこれからやりたいこと ・やりたいことに向けて、必要なこと・課題 ○全体共有 ・グループワークを通じて得た「学び・気づき・感想」
16:50 ～17:00	○事務連絡

※時間は目安です。

◆話し合いのルール

- ☆ グループの全員の皆さんが発言できるようにご配慮ください。
- ☆ アイディアや意見には「正解」、「意見の良し悪し」というものではありません。
- ☆ 自分と異なる意見も、否定せずに尊重して、ちがいを楽しんで受け入れあいましょう。
- ☆ 武蔵野市で暮らす当事者としての率直な意見をそのままお話しください。

◆ワークショップ終了後

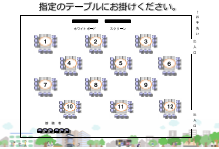
- ☆ 30分程度会場をそのままにします。他のグループで気になった団体の方や久しぶりに会った方たちとの交流の場や情報交換などにご活用いただけると幸いです。

◆アンケートにご協力ください

- ☆ 机上のアンケートへ、本日の感想のご記入をお願いいたします。お帰りの際に、職員へお渡しください。（名札もお渡しください）

ワークショップの進行スライド

会場配置図



第六期長期計画 地域ワークショップ

武蔵野市総合政策部企画調整課
令和元年度7月22日（日）
13:00～15:00

本日のワークショップについて

- 武蔵野市内の市民活動団体の方々から、参加の希望をいただいた方により行います。
- 武蔵野市の理想の地域像・ありたい姿について、ご一緒に考えることでイメージを共有し、市民活動団体相互の連携によって、どのようなアクションを行っていくか、アイデアをうみ出ししていく予定です。
- 本日は「市民ファシリテーター」の皆さんが進行のサポートを行います。

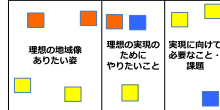
ワークショップの進め方

みなさんと一緒に話しながらつくる地域像とポストイット、発想のいいことが成果物になります。
みなさまの意見、意見として審議委員会へ活用されます。
いくつかのワークがあります。基本的には「個人ワーク」
それぞれがポストイットに意見・コメントを記入する
※1ポストイット1意見・コメント
【グループ共有】
ポストイットを横並びにしながらグループに説明・共有
という2つを繰り返しながら進んでいきます。

ワークショップの進め方

テーブルには1人ずつみなさんの意見をサポートする
進行役（ファシリテーター）が控えています。
時間を有効に活用し、ひとりひとりが意見を話し合える
ようにお手伝いする予定です。
アイデアや意見は「正確」や「意見の激しき」とい
うものは存在しません。
自分の意見と異なっても、否定せずに尊重して、
むかしを話し合うことで連携・ネットワークを育みましょう。
より良い武蔵野市の地域をつくる活動者として、
幸運な意見をもたせかけてください。

本日の成果物のイメージ

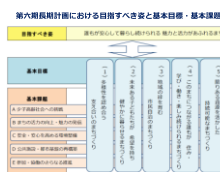
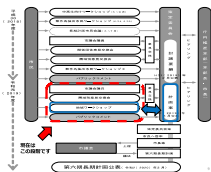


自己紹介 「わたしのライフヒストリー」

ひとり3分の持ち時間で
①私と武蔵野の関わり
②今後やりたいこと
を記入したポストイットをそれぞれに書いてください。
また、お話ししている団体名称を記入してご一緒に
教えてください。

お互いに興味を持って「傾聴」をお願いします。

長期計画とは



ワーク

武蔵野の「理想の地域像・ありたい姿」を
みなさんそれぞれの言葉で教えてください（配席）

個人ワーク: 5分
※1ポストイット1意見・コメント
グループ共有: 15分
※ひとり2～3分を目安に

ワーク

理想の地域像、ありたい姿をイメージして
「登場人物（団体）」が話せるのか、
対話しながらイメージをふくらませましょう（配席）

個人ワーク: 3分
グループ共有: 20分

こんな雰囲気です・・・



こんな雰囲気です・・・



ワーク

登場人物（団体）のイメージを上げたことによる
「学び・気づき・発見」を共有してください（配席）

グループ共有: 5分

ワーク

「理想の地域像、ありたい姿」を実現するために
「私たちがこれからやりたいこと」の
アイデアを共有して教えてください（配席）

個人ワーク: 5分
※1ポストイット1意見・コメント
グループ共有: 15分
※ひとり2～3分を目安に

ワーク

これからの実践に向けて「必要なこと・課題」
について話し合ってください（配席）

グループディスカッション: 15分
※自由に話し合ってください。意見、
市民ファシリテーターがポストイットに
書き込んでいきます。

ワーク

全体を通した
「学び・気づき・発見」を共有してください

このあと全体で発表いただくので
どなたかひとりマイクを持つ方を決めてください

グループ共有: 7分

本日はありがとうございました！

お時間が許す方には、
約30分の交流タイムをご用意しています。

記入済のアンケートとを記入し入れは、
出口の職員にお渡しください。

テーマ説明：子ども・子育て世代への支援

令和4年度 第1期
公立大田区立児童
福祉センター
親子・ファミリークラブ

子ども・子育て世代への支援

1
 計画

・計画書

2
 現状の把握

・現状の把握

3
 現状の取り組み

・現状の取り組み

1
 計画

・計画書①

【子ども・子育てへの支援】の基本計画

① 現状の把握（R2年度～現在）

基本事項 中野区が定める条例（R15）
 中野区が定める条例に基づき、令和4年度から令和5年度まで5年
 ～一人ひとりの将来に一次に必要とする支援の提供（「ゼロから始める」）
 ・事業計画の策定・実施・評価
 ・事業計画の策定～令和5年度（中野区）
 ・事業計画の策定～令和5年度（中野区）
 ・事業計画の策定～令和5年度（中野区）




中野区立児童福祉センター

3
 現状の取り組み

・現状の取り組み

② 現状の取り組み

【子育て支援、思いやり社会】
 ・子育て支援センター
 ・子育て支援センター
 ・子育て支援センター




中野区立児童福祉センター

[illegible][illegible][illegible]

テーマ説明：地域の担い手の発掘・育成

令和5年度 第1回
全日本学生選手権
大会の開催地
福岡・アークアレーナ

地域との担い手の発掘・育成

① 計画策定

- ・ 議会の開催
- ・ 議会の開催
- ・ 議会の取り組み

② 計画策定

1. 基本政策① 地域人材の確保と育成に向けた取り組み

（1）地域人材の確保と育成に向けた取組（P10）

本市は、地域人材の確保と育成を推進するため、今年度より本市の若い世代をとり、地域での学びや就業を促進する「**若手育成支援事業**」を、これまで「**若手人材の確保と育成支援事業**」として実施してきた。本年度からは、事業の名称を「**若手育成支援事業**」に変更し、事業の趣旨や目的を明確化し、より効果的に実施していく。

（2）若い世代の確保と育成に向けた取組の推進、地域人材の確保と育成に向けた取組の推進

人材確保と育成支援事業は、今年度より本市の若い世代をとり、地域での学びや就業を促進する「**若手育成支援事業**」として実施してきた。本年度からは、事業の名称を「**若手育成支援事業**」に変更し、事業の趣旨や目的を明確化し、より効果的に実施していく。

（3）若い世代の確保と育成に向けた取組の推進、地域人材の確保と育成に向けた取組の推進

人材確保と育成支援事業は、今年度より本市の若い世代をとり、地域での学びや就業を促進する「**若手育成支援事業**」として実施してきた。本年度からは、事業の名称を「**若手育成支援事業**」に変更し、事業の趣旨や目的を明確化し、より効果的に実施していく。

「若手育成支援事業」の推進に向けた取組

③ 議会の開催（2/2）

1. 議会の開催

「**若手育成支援事業**」の推進に向けた取組

2. 議会の開催

「**若手育成支援事業**」の推進に向けた取組

いばき会 の取り組み

「**若手育成支援事業**」の推進に向けた取組

いばき会 の取り組み

「**若手育成支援事業**」の推進に向けた取組

フアミリーサポート

「**若手育成支援事業**」の推進に向けた取組

フアミリーサポート

「**若手育成支援事業**」の推進に向けた取組

[illegible][illegible][illegible]

テーマ説明：公共施設再構築の住民合意のプロセス

公共施設再構築の 住民合意のプロセス

※令和4年 月 日
※令和4年 月 日
※令和4年 月 日

1. 計画案

2. 現状の課題

3. 現状の取り組み

1. 計画案 - ①

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

1. 計画案 - ②

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

1. 計画案 - ③

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

2. 現状の課題 (1/4)

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

2. 現状の課題 (1/4)

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

2. 現状の課題 (2/4)

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

2. 現状の課題 (3/4)

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

3. 現状の取り組み

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

3. 現状の取り組み

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

3. 現状の取り組み

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

3. 現状の取り組み

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

【基本案】
【基本案】
【基本案】

テーマ説明：地域の防災・安全への取り組み

[illegible]

テーマ説明：緑・環境を守る取り組み

[illegible][illegible][illegible][illegible]

テーマ説明：市民活動団体の相互連携

令和4年度 第1期 月報
市民活動推進課
まちづくりワークショップ

市民活動団体の相互連携

① 計画

・計画案

・団体の課題

・連携の取り組みの進め方など

② 実施

・実施の進め方

・実施の留意点

③ 評価・振り返り

・評価の進め方

・振り返りの進め方

④ 連携の進め方

・連携の進め方

・連携の留意点

[illegible][illegible][illegible]

ワークショップ参加団体紹介文

1 公共施設再構築の住民合意のプロセス

5	東部防災会	平成24年7月より、避難所運営組織として発足、平成29年4月に東京防災隣組に認定される。今年度の目標は、福祉の会の要援護者対象事業、コミセンの地域支え合いステーション等との連携をスムーズに運営できるよう、東部地域総合対策本部(仮名)を検討する。
5	銀友会	武蔵野市で22番目に出来た老人クラブ銀友会です。主に九浦の家にて軽スポーツ・コーラスなどの活動をしています。又2回、八幡通り公園の清掃活動をしています。
5	有の実会	平成22年7月より、いきいきセミナー(H22上期)終了生による生涯学習グループ活動を行っています。毎月、定例会・CD鑑賞会・句会・外出行事を行い、老壮連合趣味の作品展(毎年3月)の運営・出展にも参加しています。また、老壮連合内で、ネット句会、読書会を開催しています。(毎月)
5	吉西福祉の会「ひろばひよこ」	地域社協として、子育て支援活動を始めて15年、乳幼児をもつお母さんとの集まりを、月1回、開いています。のびのびと遊んでいた、スタッフ(会員)もお子さんとのふれ合いを喜んでます。

2 市民活動団体の相互連携

10	特定非営利活動法人 市民によるガバナンス推進会議	
10	企画集団A-A'	平成18年4月に設立。 市民参加型の自主上映会や朗読劇、芝居公演を開催・運営。昨年の市民社協40周年記念公演に参加された方々と、今年の1月に表現ワークショップ「はらっぱ塾レインボー」開塾。
10	むさしのFM市民の会	昨年20周年を迎えた当会は、コミュニティ放送ならではの市民からの情報提供・発信により、リスナーの拡大も含め武蔵野FMを応援。 運営委員10名+会員100名。
10	特定非営利活動法人 高齢者の音楽を考える会	平成15年NPOとなり、主に高齢者施設で音楽療法活動をしている。 その他、シニアの為に「歌の会」開催、シニアのミュージカル「浦島太郎」上演、音楽療法講師育成講座の開催。 新しく、多世代交流事業として、「高齢者施設で子供のリトミック教室」の開催(特養とらふにて)著書「歌って元気あの歌この歌」・・・ドレミ楽譜出版社 「歌って元気あの歌この歌」・・・高齢者向け大文字歌集 「武蔵野市ゆかりの音楽家」・・・美術館音楽室にて販売。
10	特定非営利活動法人 窓の安全と快適性を保つ会	過去三カ年、近隣自治体の公立小・中学校の窓点検を実施しました。その実績を踏まえ、武蔵野市へ点検提案を促したいと考えています。児童含む使用者にとって窓をより安全・快適に永く用いてもらいたいと思っています。
11	境南富士見会	武蔵野市に29団体ある「老人会」のひとつです。地域の高齢者を結びつける活動として、「誕生会」や「スポーツ行事」を行います。会員は71名。
11	御殿山コミュニティ協議会	コミセンの運営に関わっています。 私事ですが、資格と経験を生かしてアクションを起こしたいと考えています。子ども食堂、学習支援に興味があります。
11	特定非営利活動法人 ハモニカ横丁東京	日本国内の横丁の現状と課題及び問題について、横丁に関わる方々をはじめ、武蔵野市内や近隣のみなさんと話し合い、「横丁インタビュー」シリーズとして冊子にまとめる活動をしています。これまでに6冊制作しました。
11	中央地域福祉活動推進協議会	中央福祉の会は、2年後に20周年を迎えます。スローガンは“住み続けたい街、中町・御殿山”です。それを実現すべく、新しい仲間・担い手をどのように呼び込んでいか、また地域内諸団体とどのように連携をとっていくか、日々メンバーで考えながら活動しております。
11	中央コミュニティ協議会	中央コミセンは武蔵野市のほぼ中央に位置し、交通の便が良いことで多くの方々に親しまれ、いろいろな活動の拠点として利用されています。様々なイベントや他団体との共催事業などを行っています。
12	武蔵野ふれあい古文書会	2018年4月に武蔵野ふるさと歴史館、古文書解読講座初級受講者有志により設立され、武蔵野市に現存する古文書の解読、研究を行い、地域の歴史を知ることが目的とする。
12	特定非営利活動法人 市民まちづくり会議・むさしの	当会は2000年に策定された都市計画マスタープランのフォローアップをするために創設された、まちづくりのための中間支援組織で、現時点では約15名の都市計画や建築、土地利用、造園、弁護士など専門家及び、長期にわたりまちづくり活動を行っている市民活動家約13名、合計28名によるNPO団体です。武蔵野の住みやすいまちづくりのための活動を続けています。詳しくは、 www.matimati.or.jp をご参照ください。

12	西久保・五小地区パトロール隊	平成26年1月発足。オリジナル腕章着用によるパトロール活動や、シルバー見守り隊による五小児童の登下校時の見守り活動を実施しています。構成メンバーは、地域団体の委員や地域有志です。
12	はなみずき	境1丁目でいきいきサロンマルセを週1回開催しています。毎回15～20名の方々が参加して、市健康センター、警察、消防等公的機関の方々のお話を伺ったり、手作業(ぬり絵、折紙、ゲーム等)をしたり、手話や声を出す練習等、多彩な事を楽しんでいます。
12	はちコミ ほんわか隊	H28. 1月～ 0才から未就学児の親子を対象とした市との共助によるcollabonoコミセン親子ひろばの運営が主な活動です。 ほんわかとしたそのまんまでいいよ…という様な「ひろば」を大切にしています。子育て世代を応援したいという地域の方と子育て応援スペース「とことこ」と力を合わせて取り組んでいます。

3 子ども・子育て世代への支援

1	まちの保育園 吉祥寺	吉祥寺本町にて、子どもを中心に地域のつながりをつくっていく活動をしています。
1	けやきコミュニティ協議会	コミセンでは人と人とのゆるやかなつながりを目指して日々まちづくり活動をしています。幅広い年齢層、多様な利用がありますが、子育て世代のつながりの窓口として親子広場を開催しており、今後も応援していきたいと願っています。
1	むくむくみらい	保育所なので、保護者からの相談窓口との関係を、市役所や身近な窓口との方々との交流を深めていきたい。
1	さんりんしゃの会	平成29年1月より本宿コミセンにてcollabono(こらぼの)コミセン親子広場で活動しています。子育て支援にかかわり、子どもたちからたくさん笑顔をもたせて活動してきた地域の人たちの集まりです。子育ての親、孫育ての祖父母、スタッフと一緒に、子育ての楽しさ、喜びを分かち合え、仲間づくりのできる広場を目指しています。
1	武蔵野の教育を語る会	2015年5月より、保護者、教育関係者、市民を対象に「教育カフェ」(懇談会)を月に1度程度行っています。テーマを決めて行う場合と、参加者の関心事を交流する場合など、多様に行っています。
2	アトリエ・コスモ	結成24年目を迎えるサークルで絵画の制作に励んでいます。今後も老若男女を問わず、特に子育て世代の方々に絵画の楽しさを知って頂き、ゆとりある子育てをして頂きたいと考えております。
2	吉祥寺東部地域福祉活動推進協議会	吉祥寺東町全域と、本町一丁目のサンロードより東側をエリアとする地域社協、東部福祉の会です。地域福祉活動は、すべての世代を対象にいろいろな形で展開されますが、世代間交流によって、より一層豊かな人間関係を紡いでいきたいと願い、新企画を模索中です。
2	武蔵野市学童クラブ連絡協議会	武蔵野市内12の学童クラブ代表者にて構成され、情報交換とより良い学童クラブの環境づくりを目的に活動しています。学童保育の質を高める改善提案を通じ、課題を共に解決していきたいと考えています。
2	武蔵野市保育園父母会連合会	
2	武蔵野ヒップファミリークラブ	武蔵野市では、1990年より、多世代で多言語の自然習得の活動を行っています。そして、多言語とともに、どんな国の人にも線を引かない、すべてのことばに開かれた心を育て合っています。
2	青少年問題協議会 境南地区委員会	武蔵野市から委嘱され地域の様々な団体の方々と青少年(18歳以下の子ども対象)の成長を見守っています。 境南地区のスローガンは「笑顔あふれる:青少協境南地区」です。 活動を通して地域の皆さんに親しみやすさ笑顔をアピールしています。 主な活動は、むさしのジャンボリー、スポーツ体験、CAP学習会、美化活動、地域運動会、どんど焼きなどです。 是非、青少協の一員として地域活動に参加してみませんか。楽しいですよ。
3	青少年問題協議会 井之頭地区委員会	井之頭地区委員会は、青少年の健全育成を推進する地域活動組織(井之頭小学校区)で、むさしのジャンボリー、美化活動、地域パトロール、井之頭まつり、新年子ども会(どんど焼き)などさまざまな活動を行っています。
3	さつきクラブ	「加工食品と手作りの食べ物」をテーマに、食品添加物の学習・簡易テストなど行っている。“加工食品”と売られているものを“手作り”することで学習(うどん・ソーセージ・こんにやく・かまぼこ・味噌など)。消費生活センターの「夏休み親子教室」、「消費者スクール」・市民会館「母と子の教室」に協力。また、子どもたちに科学する目を持ってほしいと、食品を科学するという視点から、さつきサイエンスクラブとして活動している。〈糖度〉〈着色料〉〈塩分〉などの実験をベースに〈カルメ焼き〉〈塩と砂糖〉などいろいろな分野をテーマとして情報を提供している。市主催の「サイエンスクラブ」「サイエンスフェスタ」に参加している。
3	桜堤児童館地域クラブ	地域の家庭教育に関わる研修活動と、親子の交流を支援。 月2回程度のペースでヨガでリフレッシュをし、地域クラブ主催イベント、児童館まつりに参加しています。6/28(金)に主催イベント人形劇やります!!

3	むらさき育成会	武蔵野市に在住・在勤・在籍する障害児・者の親の会です。子ども達の豊かな成長を願い、活動しています。見学会や講演会を開催したり、連合会としての要望書提出や、あったかまつりに参加したりしています。
3	武蔵野千川福祉会0・1・2歳親子ひろばさくらんぼ	

4 地域の担い手の発掘・育成

4	関前なのはな会	2017年4月に、なのはなサロン(いきいきサロン)を開設しました。当サロンは毎週日曜日、武蔵野館のご協力を得て午前中に開催しております。ご近所の独居高齢者を中心に集まりいただき、居場所作り等、福祉力向上に努めております。
4	むさしの・こどもエコフォーラム	団体設立12年にわたり、市内小学生を対象に「あそべえ、出前授業、野外学習、イベント参加」を通じて「自然の不思議、いのちの尊さ」を学習し、驚き・感動など、子供のものの感性の育成に努力しています。参加したこどもの数は約2,000人です。
4	吉祥寺本町シルバー会	
4	北町サロンの会	北町サロンは毎週月曜日1時半より、体操(椅子に座り軽体操、ボールの受渡し)、脳トレ、歌を歌う(ピアノの伴奏で)。
4	西部コミュニティ協議会	
7	武蔵野緑町パークタウン自治会	武蔵野緑町パークタウンは都市再生機構(UR)が管理する、855戸の賃貸住宅であり、自治会は、建替え前から発足して60年をこえる居住者の自主的な組織です。住んでいる方はかわっていきませんが、安心・安全・快適のまちに向けて、URをはじめ様々な方面と話しあい、「まちづくり」を進めています。
7	(社福)武蔵野特別養護老人ホームゆとりえ	地域福祉推進の拠点として、地域に開かれ、地域住民と共に取組む施設でありたいと考えています。
7	一小地域防災ネットワーク	平成20年9月、「一小地域の防災を考える会」(第1回)を地域の各団体に呼びかけ催した。その後毎年6月、防災訓練を行い、第3回から第一小学校の高学年も参加して訓練を行っている。11月には勉強会も行っている。立ち上げた人達が高齢化して次の世代にバトンタッチする時期がやって来た。防災は熱心な人がいないと広まらない。
7	吉祥寺北コミュニティ協議会	昭和54年6月開館。市民参加と住民自治を基本にコミュニティの三原則「自主参加・自主企画・自主運営」を順守し、地域の人々が語り、集う場所を目指しています。
7	武蔵野市陸上競技協会	

5 地域の防災・安全への取り組み

6	一中地域防災会	平成25年7月より市立第一中学校の学校区域の住民に自助・共助の大切な点を説明し、住民一人ひとりが自分の身を守る「自助」、そして近くにいる人同士が助け合う「共助」が大変重要な点を説明し、地域での防災町会を立ち上げる活動を行っております。令和元年5月で地域内で23の自主防災組織が立ち上がり、現在も進行中です。
6	共同参画むさしの	2010年12月より武蔵野市の男女共同参画推進を目的として、特に性的少数者の人権に係わる講演会、上映会など普及啓発活動を展開。現在プレイスギャラリーで、全国自治体の同性パートナーシップ証明を概括して展示中、ぜひご覧下さい。(25日まで)
6	吉祥寺東コミュニティ協議会	当協議会は、昭和53年に開設された「吉祥寺東コミセン(九浦の家)」の運営団体で、本年で41年を迎えます。常に、地域の出来事・諸問題に取り組んでおり、住み易い・生活し易いコミュニティを創造し、将来に残したいと考えております。
6	特定非営利活動法人 都市環境標識協会	平成18年、東京市長会では都条例改正に伴い、当NPOの避難誘導標識の形状全体のデザインの認定を行い、多摩主要市は採用を決定したが、武蔵野市は10,000,000以上をムダにして何も実績なし。
6	社会福祉法人 武蔵野千川福祉会	障害のある方を対象とし、地域で「はたらく」「くらす」を大切にしながら、支援をすすめております。昭和51年に立ち上げ、43年目を迎える社会福祉法人です。生まれた地域でいつまでも暮らし続けるために、皆様と一緒に考えていけたらと考えております。
9	緑町コミュニティ協議会	緑町コミュニティセンターは地域住民の地域活動(文化活動・健康促進・生活情報の交流)等の場として活用して頂いている。
9	西久保コミュニティ協議会	西久保コミセンは市内16コミセンの一つで大型コミセンです。利用者は1万名以上/年間です。武蔵野市のほぼ真中で三鷹駅より徒歩7〜8分の場所に有ります。

9	すみれ保育室	1979年に開園以来、子どもたちの笑顔とひとりひとりの成長を見守り続けています。保護者の方に安心して、お子さんを預けてもらえるよう、子どもたちに寄り添った、きめ細やかな保育を心がけています。
9	武蔵野ワンワンパトロール隊	2005年4月に発足。愛犬家が散歩することで地域防犯に役立つことを目指しています。犬のしつけ教室、クリーンキャンペーン(街のゴミ拾い)を実施。市の防犯・防災訓練にも参加しています。
9	はなみずき会防災会	
6 緑・環境を守るの取り組み		
8	一般社団法人 きくつと／ 武蔵野の森を育てる会	私たちは、武蔵野市立「境山野緑地(さかいさんやりよくち)」(9,188㎡)に豊かな生態系の雑木林を育てるための保全活動をしています。緑地の南側半分は「独歩の森」とも呼ばれ、住宅街に残された貴重な森として多くの生き物を育んでいます。
8	小路ガーデン	①事業名:四季を通し花の絶えない公園 ②事業目的:四季の草花作りの作業により、人々の交流を深め、むさしの花と緑のまちづくりの拠点とする。 ③個人の想いを第一に、イ、花の買入れ ロ、植つけ ハ、水やり ニ、花殻つみ、個人の担当エリアを固定する。4点を目指します。
8	西久保一丁目緑をまもるまちづくり協議会	緑をまもる地区まちづくり計画の第一号として2016年に認定されました。ゆくゆくは西久保一丁目全体へと広げていかれたらと願っています。緑の大切さは、景観の面からだけでなく、地球環境や災害の面からも重要になってきています。
8	千川地域防災会	
8	井之頭みどりクラブ	

参加者アンケート（表）

参加者アンケート

本日はご参加いただき誠にありがとうございました。今後の事業の参考とするため、ぜひアンケートにご協力ください（該当する番号を○で囲んでください）。

1 ご自身について回答をお願いします。

(1)年 齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代 ⑧80代以上

(2)ご住所 ①吉祥寺東町 ②吉祥寺南町 ③御殿山 ④吉祥寺本町 ⑤吉祥寺北町 ⑥中町
⑦西久保 ⑧緑町 ⑨八幡町 ⑩関前 ⑪境 ⑫境南町 ⑬桜堤 ⑭市外

(3)武蔵野市での居住または活動年数

①1年未満 ②1年以上5年未満 ③5年以上10年未満 ④10年以上

2 参加をお決めいただいた理由は何ですか？（いくつでも）

- ① 第六期長期計画の計画案の内容を知りたかったから。
- ② 第六期長期計画の計画案に対する意見を言いたかったから。
- ③ 自身の団体の活動に役立つと思ったから。
- ④ 他の団体の方の考えを聞いてみたかったから。
- ⑤ 他の団体との連携が図れる良い機会だと思ったから。
- ⑥ いろんな方との意見交換がしたかったから。
- ⑦ たまたま日程が合ったから。
- ⑧ その他（ ）

3 参加された感想とその理由をお聞かせください。

- ① おもしろかった。楽しかった。
- ② おもしろくなかった。つまらなかった。
- ③ どちらでもない。
- ④ その他

< 理 由 >

4 個人ワーク・グループワークの時間はどうでしたか？

【個人ワーク】

- ① 適当 ② 長い ③ 短い ④ その他（ ）

【グループワーク】

- ① 適当 ② 長い ③ 短い ④ その他（ ）

裏面に続く

参加者アンケート（裏）

5 市民ファシリテーターへの感想

① 満足できた。 ② ふつう。 ③ 満足できなかった。

＜満足・不満に感じた点＞

6 職員の対応はどうでしたか？

7 本日のワークショップの感想（興味を持たれたこと、印象に残ったこと、困ったところ、
わかりづらかったところなど）を自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。
出口の職員にお渡しください。



武蔵野市第六期長期計画 地域ワークショップ報告書
(令和元年6月23日開催)

令和元年8月発行

発行 武蔵野市総合政策部企画調整課
〒180-8777 東京都武蔵野市緑町 2-2-28
電話 0422-60-1801 (直通)